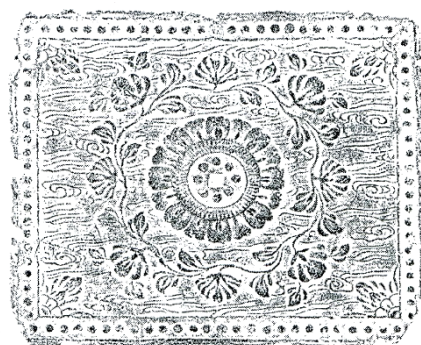


九州歴史資料館年報

令和2年度



九州歴史資料館

は じ め に

この年報は、当館が2年度に実施した調査・研究活動と事業の概要を報告するものです。

2年度当初は、元年度末から引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため臨時閉館を余儀なくされ、5月19日からの再開後も、基本的な感染拡大防止対策に加え、とくに普及事業については、広く一般に受講者を募る講座・ゼミ・ギャラリートークは、開催時の状況により中止や規模を縮小させての実施となりました。さらに、九歴ボランティアによる活動は年間を通じて休止、学習支援活動やその他のイベントは、夏までは中止、秋から冬にかけては人数制限を行っての開催となりました。

そんな中、2年度は、当館が平成22年（2010年）11月21日に太宰府市から小郡市へ移転開館して、10年の節目を迎えました。11月には、移転開館10周年記念イベント、特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」、その他関連行事を予定どおり実施することができました。

また、大正10年（1921年）3月3日に「大宰府跡」と「水城跡」が福岡県で初めて史跡に指定されて、100年を迎える記念の年でもありました。3月に実施を予定していた記念シンポジウムは、感染状況を鑑み中止しましたが、大宰府史跡を紹介する記念映像を4か国版で作成しましたので、今後の観光振興に活用していきます。

2年度の新たな取組みとしては、ウィズコロナ、アフターコロナの館運営を見据え、これまでの来館型サービスにおける魅力向上に加え、自宅に居ながらにして本県の文化財を観覧、本県の歴史文化を知ることができる機会の充実を図るべく、VR体験映像コンテンツ制作や古代衣装体験メニューのデジタル化、HP再構築、並びに館内表示用各種デジタルサイネージの導入など、デジタル化を一気に加速させました。

今後も皆様方に、あらゆる形で当館を御利用いただけるよう、導入したコンテンツ等を最大限活用した館運営を行っていきたいと考えております。引き続き、御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、この年報が多くの方々に御活用いただければ幸いに存じます。

令和3年8月

九州歴史資料館長

城 戸 秀 明

目 次

1 事業概要

(1) 調査・研究	4
(2) 展 示	20
(3) 資料利用	31
(4) 学習支援・博学連携	41
(5) ボランティア	45
(6) 普及・活用事業	46
(7) 重点施策	56
(8) 広報活動	61
(9) 実習・研修	64
(10) 刊行物一覧	66
(11) 交流事業	66
(12) 協議会等	67

2 九州歴史資料館概要

(1) 沿 革	68
(2) 施設概要	70
(3) 予 算	70
(4) 組織・職員	71
(5) 関連法規	72

3 諸 統 計

(1) 入館者状況	78
(2) 収蔵資料・図書	78

4 日 誌 抄	79
---------------	----

1 事業概要

(1) 調査・研究

[学芸調査室学芸研究班]

◎美術工芸資料に関する調査研究

造形遺品を対象として調査研究を進めている。対象としては、古代から中世にかけての仏像や仏画などの、いわゆる仏教美術と、福岡藩お抱え絵師尾形家を要とする、近世絵画を主として据えながら、その他の彫刻、絵画、工芸も広く意識して扱うように努めている。このような調査研究を通して、九州や現在の福岡県域が、わが国の歴史の中で、また東アジアの歴史の中で、どのような特色をもち、どのような役割を果たしてきたのか、その一面を明らかにするべく努めている。2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、とくに前半はほとんど調査を行うことができなかったが、後半を主としながら、以下の通りの活動を行った。

○寺社所蔵資料の調査研究

造形遺品が集中する場として、寺社が挙げられる。当館では、地域の歴史において中核的な役割を果たしてきた寺社をとり上げて、そこに伝わる造形遺品を中心とした文化財を悉皆的に調査して、当該寺社を考えることを通して地域の特色を把握しようという調査研究を核としながら、特定地域の造形遺品について集中的に調査を行うことで、その地域の特色を浮かび上がらせようとする調査研究や、地誌をはじめとする各種史資料や、市町村の文化財担当者から得られた情報に基づく調査などを、臨機的に組み込みながら調査研究を進めている。

2年度は、前年度に引き続き、宗像市内の仏像調査を行い、また特別展に関連して佐賀県基山町の大興善寺に安置され、神仏分離までは安楽寺天満宮（現在の太宰府天満宮）に所在していた、十一面観音坐像、不動明王立像、毘沙門天立像の調査、とくに平安時代後期に遡る古像である不動明王立像については精査をかけ、そして、長崎県諫早市の天祐寺に安置され、神仏分離までは四面宮（現在の諫早神社）に所在していた、長崎県指定文化財候補の四面菩薩坐像の調査を行った。四面菩薩は雲仙の神である。宝永2年（1705）に張瀬刑部によって造像された、四面菩薩像の希少な遺例である本作は、調査の結果を受けて長崎県指定文化財となっている。宗像市においては、前九年の役の後に大島に流された安倍宗任の念持仏だと伝わる、平安時代後期の薬師如来立像、鎮国寺奥之院の文永二年（1265）銘の線刻釈迦如来石仏、承福寺の建武（1334～1338）の胎内墨書銘をもった如意輪観音坐像について調査し、調書作成と写真撮影を行った。これらの尊像は秘仏であって、宗像市史編さん事務局の尽力のもと、安昌院、鎮国寺、承福寺の各寺院より格別の御高配を得て調査が叶ったものである。

なおその他、栄西が開創以来長く滞在したことで知られ、平安時代末から鎌倉時代初めにかけてのものを中心に、多くの貴重な文化財を伝えている、福岡市西区の誓願寺の本尊阿弥陀如来坐像の修理に関わり、その調査も行い、基礎的な資料を調べている。従来は、藤末鎌初期の作風を見せながら、13世紀の半ばの制作だとされてきた、この半丈六の像であるが、作風と技法の検討からやはり藤末鎌初の作だと見てよいこと、そして丈六と史料に記載されている創建期の本尊と、実は同一の像であることが判断された。また本像と、造営期の誓願寺には、寧波の阿育王寺舍利殿建設に携わっていた重源が、深く関わっていた可能性までが指摘できるに至っている。九州なり福岡県域の、すでによく知られた文化財や場についても、あらためて再検討を行うことで、新たに大きな意義が見出される場合があることを意識させられる事例である。詳しくは『九州歴史資料館研究論集』46によっていただきたい。



四面菩薩坐像（長崎・天祐寺所蔵）



阿弥陀如来坐像（福岡・誓願寺所蔵）

○九州に偏在する大陸系彫刻の調査研究

九州に偏在している、中国の明時代以前の彫刻、朝鮮半島渡来の彫刻について、調査と研究を進めている。中国の明時代以前の彫刻については、奈良時代以降の日本の彫刻への影響を考える上で重要な存在でありながら、これまで必ずしも進んでいなかった調査を前進させ、より具体的に九州の彫刻への大陸からの影響や、日本彫刻史における大陸からの影響を考える上での有用な基盤を形成するために、調査と研究を進めているものである。調査は木彫像や塑像等にとどまらず、九州西側にのみ存在する中国渡来石塔である薩摩塔に刻まれた5軀の尊像、またその他の中国渡来石造物までを対象としている。2年度については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のために、調査は前年度よりもさらに低調とならざるを得なかったものの、九州に偏在する中国渡来石塔の位置づけに資するために、九州の作例だけではなく、奈良東大寺の石造獅子や和歌山蟻通神社の石造獅子のような、畿内の中国系石造物についての調査を行うなどもしている。なお、中国渡来石造物の中で多くを占めかねてより重要性が意識されてきた薩摩塔については、これまでの調査研究の小結として、信仰主体や背景まで検討した報告書を刊行している。

○福岡県内の絵画調査と研究

元年度までに引き続き、福岡藩の御抱え絵師、尾形家についての調査研究を行っている。2年度より、狩野探幽に絵を学んだ尾形家初代～第三代に焦点を当て、作品と画稿についての調査研究を本格的に進めている。寺社や個人蔵の作品の調査は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったが、画稿（尾形家絵画資料）については、所蔵先である福岡県立美術館の協力を得て、初代仲由、第二代守義の制作した331点の調査と写真撮影を開始し、2年度末までに110点分を完了した。3年度以降も継続して調査を行う予定である。また、尾形家絵画資料のうち小方喜六筆「大江山絵巻」画稿について、筑紫女学園大学との共同研究の成果を『筑紫女学園大学人間文化研究所年報』第31号にて公開した。

さらに、県内各所の絵画について、市町村の依頼等をうけての調査も行っている。2年度は、主に、『新修宗像市史』にかかるものとして、宗像市の旧家や寺社に伝わる絵画や絵馬の調査を行った。その際に発見された福岡藩の御抱え絵師、衣笠守昌の新出の屏風については、『九州歴史資料館研究論集』46にて紹介を行った。

そのほか、太宰府市教育委員会が行っている太宰府絵師調査にも、絵画担当職員が調査員のひと

りとして参加している。元年度までに続き、全国に名の知られた文人である吉嗣拝山を核とする吉嗣家の絵画資料調査に参加した。2年度は、調査の途中成果として吉嗣家資料のうち印章についての報告書が発行され、絵画担当職員も刊行に携わった。

○文化財の保護活動

当館では、現地での保管が困難ないしは危険であり、かつ当面所在地を離れても、地域の信仰文化に深刻な影響を与えることはないと判断される、文化財としての意義をもった仏像や神像、仏画等々をはじめとする文化財について、受け入れを行っている。この際は、緊急避難を受け入れた上で、地元の環境を整えることに協力し、整えば極力再び地元で保管するというのを、理想の形として心がけている。また、県指定文化財を安置する堂宇や収蔵庫の建て替えに伴う一時保管を行うこともある。元年度については、先の誓願寺において阿弥陀如来坐像安置の環境を整えることに協力をするなどのことはあったものの、新たに文化財の目立った受け入れは行っていない。

◎考古基準資料調査

○古代玄界灘における漁労活動の調査研究

本研究では、玄界灘沿岸地域における弥生・古墳時代の遺跡出土漁労具から、弥生・古墳時代の漁法を復元し、漁労活動や漁労集団、生産活動等について検討を加える計画である。3年目にあたる2年度は、元年度から継続中の既刊行物からの玄界灘沿岸地域の遺跡出土漁労具の集成を完了させた。また集成した出土漁労具の中から漁法の復元可能な資料群を抽出し、民俗例との比較検討の結果、漁法と漁労活動の復元、それが出現・展開した社会背景等について検討を行い、その成果を『九州歴史資料館研究論集』46で公表した。

○福岡県内における軍事に関する遺構の基礎的研究～飛行場を中心に～

本研究は、北部九州地域における昭和期の飛行場及び関連施設（主として「航空機用掩体」）を研究の主となる素材として取り上げ、分布と現状について文献及び現地踏査により資料を収集し、現存状況等を把握した上で基礎的な考察を行うものである。研究初年度にあたる2年度は、現地を踏査し遺跡の現存状況等を確認しながら基本情報を収集する事を主目的としていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による緊急事態宣言等、様々な制約があったため、現地調査は予定の一部に留まった。しかし、掩体に関しては従来得られていた知見に加え、新たな類例を確認する事ができた。3年度も新型コロナウイルス感染症の感染状況を見ながらになるが、現地調査に加え、文献資料の収集及び整理を実施予定である

○福岡県内近世陶磁器研究

福智町所蔵の上野焼コレクション（全72件）の調査。3分の2ほど終了するも、新型コロナウイルス感染症の感染拡大などの影響ですべて終了せず3年へ引き継ぎとなった。なお、本年調査した作品の一部は以下の通りである。

鉄絵茶碗、鉄釉叩き徳利（釜の口窯）、飴釉茶碗、鉄絵付ゆり形皿（皿山本窯）、灰釉手付鉢（岩屋高麗窯）、緑釉双耳共蓋水指（田香焼）

九州歴史資料館移転開館10周年記念特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」で出品した高取焼・上野焼の調査は以下の通りである。

鉄釉太鼓形花入（上野焼）・鉄釉綴目水指（上野焼）・灰釉型打向付（上野焼）・黒褐釉肩衝茶入（高取焼）【いずれも熊本・松井文庫蔵】・掛け分け洲浜形向付（高取焼 東京国立博物館蔵）・大海茶入（高取焼 小堀遠州旧蔵）・半筒茶碗 銘「一文字」（高取焼）【いずれも静嘉堂文庫美術館蔵】・黒褐釉割山椒向付（高取焼）・褐釉肩衝茶入（高取焼）・藁灰餌畚形三足水指（高取焼）・褐釉砧形花入（高取焼）【いずれも出光美術館蔵】

○九州歴史資料館移転開館10周年記念特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」に関わる考古資料の調査研究

特別展開催のために下記作品の調査を行った。

貝輪（朝倉市平塚字栗山出土）・夔鳳鏡（春日市須玖岡本遺跡）・内行花文鏡（筑前町東小田峯出土）・単鳳環頭柄頭・ガラス小玉・装飾付脚付壺 金環 垂飾付耳飾（春日市日拝塚古墳出土）・海獣葡萄鏡（星野村チンのウバ塚出土）・宗像市山田経塚出土品一括・滑石経（伝筑後市若菜八幡宮出土）・宋人馮栄銘銅製経筒（須恵町佐谷観音堂経塚出土）・瓦経（伝福岡市西区飯盛山経塚出土品）【以上いずれも東京国立博物館蔵】・銅戈（春日市小倉新池出土 京都国立博物館・春日市奴国の丘歴史資料館蔵）・銅戈鎔范（岡垣町吉木出土 東京大学総合研究博物館蔵）・長宜子孫内行花文鏡・鍍金方格規矩四神鏡・三角縁神獣鏡（糸島市一貴山銚子塚古墳出土 京都大学総合博物館蔵）・瓦経（伝福岡市西区飯盛山経塚出土品）・金銅製宝塔形経筒・銅造如来立像・銅製鈴・銅製経筒・滑石製外容器（伝太宰府出土）【以上いずれも奈良国立博物館蔵】・銅製経筒・菩薩立像（太宰府市宝満山A経塚出土 文化庁蔵）・銅製経筒（伝福岡県出土 個人蔵）

◎文書・典籍資料の調査研究

当館では、古代から近現代におよぶ各時代の古文書・典籍資料のほか、出土文字資料や写真・映像資料など、広く記録資料を対象として、福岡県域そして九州の歴史的な役割・特質を明らかにすべく、調査研究活動を行っている。

○出土文字資料の調査研究

29年度から、古代大宰府の部内諸司に関する基礎的研究を開始し、出土文字資料や既存の文献史料、大宰府史跡の発掘調査成果をふまえながら、古代大宰府において、様々な職掌を遂行した部内諸司の機能や所在地についての解明を進めている。2年度は古代大宰府の被管官司に関わる史料集成を調査報告としてまとめるとともに、その研究成果を論文「大宰府の官衙と木簡」として『木簡研究』第42号に発表した。また上記の論文は、大宰府史跡出土木簡について、これまで正式報告書で公開してきた再検討の成果を総括したもののひとつでもあり、この他に「大宰府成立期の木簡」、「木簡からみた西海道の軍事と交通」も同じ号に発表した。



重要文化財 大宰府跡出土木簡（当館所蔵）

○福岡県史編纂史料等の調査研究

福岡県史編纂史料は、22年度の当館の移転開館に伴い、新たに収蔵した約15万点の史料群である。移管後は、閲覧・レファレンスのほか、未整理史料の整理を引き続き実施し、一方で展示への活用や調査研究も積極的に行っている。このほか、筑豊工業高校資料、太田静六資料等の館蔵資料についても、引き続き調査研究・整理作業に努めている。2年度は、県史編纂史料に含まれる永江

純一文書のうち、福岡県史編纂当時、福岡県地域史研究所が購入後、未受領であった資料を調査し、当館への搬入に向けた準備を行った。さらに、令和3年が廃藩置県による福岡県誕生から150周年を迎えるのに備え、永江純一文書等に含まれる県政関連資料等についても改めて調査を行った。その成果は、3年度企画展「福岡県政150年～第1部 九州の中核をめざして～」で展示される予定である。

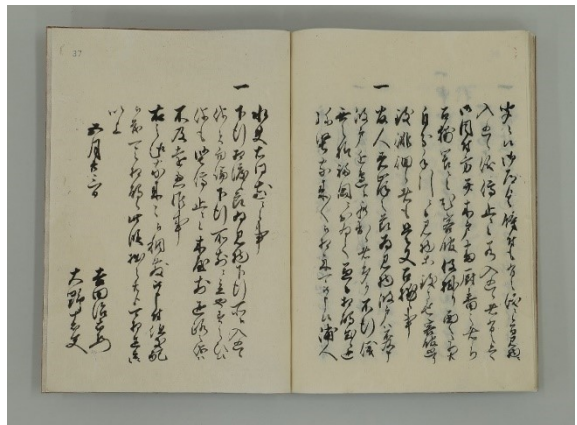
また、24年度に夜須郡三牟田村（筑前町）で酒造業を営んでいた金子家文書の寄贈を受け入れているが、その追加資料の寄贈を同じ所蔵者から受け入れた。さらに、元年度に寄贈を受けた田丸家資料（昭和4年の新嘗祭における当時の直方町からの粟献穀に関する資料）の調査を行い、その成果を特集展示「即位の大礼と福岡県」で展示している。



田丸家資料（当館所蔵）

○県内所在資料の調査研究

30年度より継続する福岡県朝鮮通信使総合調査の一環として、関係文献資料調査を実施した。ユネスコ世界の記憶に登録された宝暦13～14年（1763～64）の福岡藩朝鮮通信使記録15冊（当館所蔵）と、文化8年（1811）の小倉藩朝鮮通信使記録6冊（福岡県立育徳館高等学校錦陵同窓会所蔵、みやこ町歴史民俗博物館寄託）、対馬藩旧蔵の正徳元年（1711）朝鮮通信使行列絵巻（福岡市博物館所蔵）、また県外所在資料であるが、岩国徴古館所蔵の延享5年（1748）の藍嶋絵図（岩国徴古館所蔵）を調査し、2年度刊行の調査報告書に成果を掲載した。



福岡藩朝鮮通信使記録（黒田家文書、当館所蔵）

また、福岡共同公文書館が所蔵する九州地方行政協議会・九州地方総監府関係等をはじめとする、戦時期の県政文書について、調査を行った。その成果は、3年度企画展「福岡県政150年～第1部 九州の中核をめざして～」で展示される予定である。

[学芸調査室保存管理班]

◎文化財の保存処置

○木製遺物の保存処理

木製遺物の保存処理は、含水率の測定や樹種同定などの事前調査、トレハロース含浸による強化処置、強化処置後の余分な薬剤を除去する表面処理といった工程で行っている。2年度は、6遺跡77点の保存処理を行った。

○金属製遺物の保存処理

金属製遺物の保存処理は、X線CTスキャナや蛍光X線分析装置などの事前調査、土砂や錆を除去するクリーニング、腐食促進因子を除去する脱塩処理、合成樹脂含浸による強化処置といった工程で行っている。2年度は15遺跡113点の保存処理を行った。

○美術工芸・古文書・典籍・歴史資料に対する保存処理

美術工芸・古文書等の保存処置について、現状では文化財の有害生物を対象に、資料への被害状況、劣化状況等の保存状態調査を経て、資料に対して適切な処置を行っている。

2年度は、有害生物の被害がみられたとして、太宰府市および当館受け入れ資料について、処置を行った。

○館内の保存環境整備に関する取り組み

年間をつうじて、第1展示室、特別収蔵庫各室の温湿度測定や空調設備の制御状況の確認、特別収蔵庫周辺の有害生物監視を継続的に行った。今後も、文化財に対する有害生物をできる限り軽減させ、適切な環境のもと、保存できるよう測定や監視等の取り組みを継続する。

○各種文化財の保存対策

資料の保存環境を整備するため、22年度から関係部署と共に、温湿度等の保存環境調査を行っている。2年度、作業を行ったのは、宗像大社神宝館等であり、それぞれ収蔵庫内外に測定地点を定めデータログを設置、数カ月おきにデータ収集と定期点検を行った。調査により、年間の温湿度挙動の把握を行い、適切な保存環境整備に向けた取り組みの計画・立案を行っている。

○各種文化財の科学的調査

2年度の外部機関に基づく科学的調査は以下のとおりである。

	依頼機関	調査資料	使用機器	依頼日
1	大野城市教育委員会	梅頭窯跡出土象嵌大刀 善一田古墳群出土象嵌大刀	X線CTスキャナ 蛍光X線分析	6.10
2	粕屋町教育委員会	阿恵古屋敷遺跡出土金属塊 戸原寺田遺跡出土木器	蛍光X線分析	11.13
3	太宰府市教育委員会	大宰府条坊跡267次調査出土金属 器・赤色顔料付着土器	蛍光X線分析	12.21

上記のほか、館蔵資料については随時、科学的調査を実施している。

○外部機関への協力・研修など

(一社)文化財保存修復学会理事会に理事として出席した。また、博物館等の保存施設新築、改築をはじめ、遺物の保存処置、保存環境をはじめとする文化財保存に関する外部機関からの相談・支援依頼に随時対応している。

◎船原古墳出土資料に関する共同研究

24年度に発見され、その後、遺物の取り上げ作業やX線CT調査等の支援を行った古賀市船原古墳遺物埋納坑出土遺物について、26年度より、古賀市教育委員会と当館との間で協定を締結し、科学的調査や保存処置に関する共同研究を開始している。

2年度も引き続き、これまで撮影したCTデータの解析を進め、現状における遺物の形状や数量等を抽出し、出土位置との照合を行い、全容を把握する作業を行った。遺物のクリーニング作業は、小札甲、冑など合計448点、行った。



2年度クリーニングを終えた小札甲

◎災害による被災文化財救援への対応

平成29年7月に発生した九州北部豪雨災害により水損した文書の応急的保存処置を行った。

内容は、冷凍保存によるカビ繁殖防止、真空凍結乾燥法による乾燥処置、付着した土砂、カビのクリーニング、折れ、シワ等を伸ばすフラットニングやカビ、虫害が発生している資料への燻蒸処置である。

2年度は、小学校資料、個人蔵文書、合計2件の作業を行った、作業のうち、クリーニング作業については、朝倉市内に作業場所を設けて実施し、小学校資料が終了した。

また、熊本県教育委員会からの依頼により、熊本地震により被災した文書、写真資料について、真空凍結乾燥法による応急的保存処置を行った。



処置作業風景

[埋蔵文化財調査室文化財調査班]

文化財調査班の主たる業務は、国の機関や県及び外郭団体事業に関わる発掘調査及び報告書作成等である。加えて、2年度より3ヵ年をかけて基礎的な調査として「福岡県近世窯業関係遺跡調査」を開始した。また、県内市町村の埋蔵文化財担当者を対象とした「埋蔵文化財発掘調査基礎研修」については内容を見直し、2年度は全6回の講座として開催した。

◎発掘調査及び報告書作成

2年度の発掘調査は、昨年度の継続調査および県道改良事業に伴う発掘調査を実施した。報告書は、平成29年北部九州豪雨災害の復旧や防災に関わる事業に先立ち、元年度当館で発掘調査を実施した成果を報告書として刊行した。

発掘調査は、受託事業として元年度に引き続き山国川河川改修事業関係（国土交通省九州地方整備局山国川河川事務所）、朝倉地区治山工事（須川3）事業の2件を実施、執行委任事業として主要地方道久留米筑紫野線改良事業1件（福岡県県土整備部）、計3件を実施した。

整理・報告書作成は、受託事業として元・2年度にかけて実施した朝倉地区治山工事（須川3）事業（上須川古墳群）1冊、及び執行委任事業として元年度発掘調査を実施した大黒川災害関連緊急砂防事業等（竹林庵跡・黒川院跡・南淋寺）1冊、桂川筋災害復旧助成事業（荷原地神塔）1冊、桂川筋河川災害復旧等関連緊急事業（荷原岩切堀川）1冊の計4冊を刊行した。これら報告書は印刷物として刊行した後、電子媒体として館のHP等に掲載する予定である。

以下、2年度に実施した発掘調査の概要を掲載するが、現在整理中のものも含まれており、詳細については刊行済みもしくは刊行予定の本報告書に拠られたい。

○山国川河川改修事業関係事業

- ・下唐原東屋敷遺跡3次調査（築上郡上毛町大字下唐原）

下唐原東屋敷遺跡は山国川左岸に所在し、山国川の堆積作用によって形成された自然堤防上に立地している。2年度調査地点は、30年度に上毛町教育委員会が調査（1次調査）した地点の南側にあたる。検出された遺構は、古墳時代後期の竪穴状住居跡4棟、古代から中世にかけての竪穴状遺構1基、土坑9基、ピットなどである。竪穴状遺構からは瓦を部材として転用したカマドが検出された。他に包含層からは主に弥生時代中期の土器が出土している。

本調査により、これまでの山国川河川改修事業や圃場整備に係る調査によって解明が進んだ唐原地域における弥生時代から古代にかけての集落の変遷を補強する成果が得られた。これらの知見を基に3年度報告書を刊行予定である。



山国川と調査現場



瓦を転用した竪穴状遺構カマド

○朝倉地区治山工事（須川3）事業

・上須川古墳群（朝倉市上須川）

上須川古墳群は、朝倉低山地に立地し、尾根の西側斜面上に位置する。防災関連の治山事業に先立つ試掘調査で古墳祭祀に関係する遺物が出土し、周辺の円丘状の地形が古墳（1号墳）である事が確認され、さらに小石室1基が検出された事から、本発掘調査を実施することとなった。当初予定されていた工事用進入路が1号墳付近から外れることになり、調査対象範囲から除外した。

調査は元年度からの継続調査で、1号小石室と、周辺で把握した地形に応じて試掘トレンチを拡張、または新設し、周辺に同様の小石室が存在していないかを確認したが、調査対象範囲内では他に小石室を見出すことはできなかった。調査後、図面や出土遺物の整理を行い、報告書を刊行した。



作業風景



1号小石室完掘状況

○主要地方道久留米筑紫野線改良事業

・十郎丸長谷古遺跡（久留米市）

本遺跡は久留米市北野町十郎丸に所在し、筑後川の支流である大刀洗川右岸にあり、周知の埋蔵文化財包蔵地「古町遺跡」の北西側に位置する。調査前は耕作地で、現地表面から約60cm下に遺構面が存在する。調査の結果、弥生時代の竪穴状遺構2基、甕棺墓1基、奈良時代の竪穴住居跡12棟、江戸時代の溝18条などを検出した。

弥生時代の竪穴状遺構は平面長方形を呈しており、埋土からは多数の弥生土器と石包丁1点などが出土した。また、甕棺墓は既に削平されおり下甕のみが現存していたが、内面には朱が塗布されていた。奈良時代の竪穴住居跡12棟のうち4棟からカマドが検出された。また、最も残りの良い6号住居からは完形の須恵器杯蓋や土師器の杯、石製紡錘車と多量の炭化物が出土した。江戸時代の溝については用途が明確ではない。

なお、本調査は3年度に継続し、4年度に報告書を刊行する予定である。



調査地全景



竪穴状遺構

令和2年度文化財調査班実施の発掘調査および作成報告書一覧

発掘調査

遺跡名	所在地	調査面積 (㎡)	調査期間	調査内容	調査原因
下唐原東屋敷遺跡	築上郡上毛町字下唐原	700	2020.5.20～ 2020.8.28	集落	河川改修
上須川古墳群	朝倉市上須川	700	2020.6.3～ 2020.7.31	墳墓	治山
十郎丸長谷古遺跡	久留米市北野町十郎丸	3,200	2020.11.9～ 2021.3.22	集落	道路改良

作成報告書

タイトル	シリーズ名	調査原因
上須川古墳群	林野庁朝倉地区治山工事（須川3）関係埋蔵文化財調査報告	治山
竹林庵跡・黒川院跡・南湊寺	福岡県文化財調査報告書第275集	砂防ダム建設
荷原地神塔	福岡県文化財調査報告書第276集	災害復旧
荷原岩切堀川	福岡県文化財調査報告書第277集	災害復旧

◎福岡県近世窯業関係遺跡調査

福岡県内では、高取焼、上野焼を始め、近世以降多くの陶磁器が生産されている。また、近年では、小石原焼が重要無形文化財に指定されるなど、県内の窯業に対する関心が高まっている。

そのような中で福岡県では、県内に所在する近世以降の窯業関係の生産遺跡を対象に、総合的な緊急分布調査を行うこととし、2年度から基礎調査をはじめた。

初年度となる2年度は、文献等により既存情報の把握と整理を行い、とりまとめた一覧表を基に県内各市町村へ照会をかけ、内容の充実を図った。また、教育庁文化財保護課を事務局として有識者3名からなる「福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会」を立ち上げ、第1回の委員会を令和3年1月19日（火）リモート会議で実施した。3年度は一覧表のブラッシュアップと重点調査、調査指導委員会を開催予定である。

福岡県近世窯業関係遺跡調査指導委員会委員名簿（令和2年3月31日現在）

	氏 名	所属等	専 門
委員長	大橋 康二	佐賀県立九州陶磁文化館名誉顧問	陶磁史
委 員	辻田 淳一郎	九州大学人文科学研究院研究院准教授	日本考古学
	宮地 英敏	九州大学附属図書館記録資料館准教授	日本経済史

【文化財調査室調査研究班】

調査研究班では、大宰府史跡や関連遺跡の調査研究を主な業務として取り組んでいる。2年度は大宰府史跡の調査として発掘調査を6件実施し、報告書を2冊刊行した。また、大宰府外郭線の発掘調査を2件実施した。

◎大宰府史跡の発掘調査および報告書作成

2年度は、大宰府史跡発掘調査第10次5ヶ年計画の4年次にあたり、蔵司地区官衙跡の重点発掘調査を実施した。第246・250次調査については今年度も継続中である。

また、大宰府政庁周辺官衙跡と観世音寺境内及び子院跡で3ヶ所の確認調査を実施した。

2年度大宰府史跡調査一覧

調査回数	面積 (㎡)	調査期間	調査地区
大宰府史跡第245次調査	150	2020. 5. 29 ～ 2021. 3. 31	政庁周辺官衙跡・蔵司地区
大宰府史跡第246次調査	135	2020. 6. 4 ～ 2021. 3. 31	政庁周辺官衙跡・蔵司地区
大宰府史跡第247次調査	6. 8	2020. 4. 21	政庁周辺官衙跡・日吉/五反田地区
大宰府史跡第248次調査	6. 0	2020. 5. 25	政庁周辺官衙跡・日吉地区
大宰府史跡第249次調査	4. 3	2020. 8. 21	観世音寺境内及び子院跡
大宰府史跡第250次調査	50	2020. 11. 17 ～ 2021. 3. 9	政庁周辺官衙跡・蔵司地区

報告書は『大宰府政庁周辺官衙跡ⅩⅢー蔵司地区平地部編2ー』、『大宰府史跡発掘調査報告書Ⅺ 平成30・令和元年度』の2冊を刊行した。

○大宰府史跡第245次調査（政庁周辺官衙跡・蔵司地区）

九州歴史資料館では、21年度より大宰府跡蔵司地区の内容把握に向けた調査を実施している。21～25年度は遺構の分布や現況の地形の成因などを探るための確認調査を実施、26年度以降は確認調査成果に基づく重点調査を実施している。

第245次調査地は蔵司丘陵南東部の広い平坦面を対象として、元年度に調査を開始した。当初は礎石建物の有無を確認することが目的だったが、第1トレンチ北側にて掘立柱建物と思われる柱列を確認したため、その周囲を拡張して柱穴列の性格を確認することとなった。

その結果、柱穴列は東西7間×南北2間の側柱建物を構成することを確認した。建物の規模は14.7m×4.7mで、柱間は2.1m～2.4mを測る。

今回の調査によって、この場所には礎石建物ではなく掘立柱建物が建てられており、礎石建物と併存していた可能性があることが分かった。



大宰府史跡第245次調査 北半部全景

○大宰府史跡第246次調査（政庁周辺官衙跡・蔵司地区）

第246次調査は、蔵司丘陵に進入するための経路の確認を目的として、蔵司丘陵南部の細長い平坦面を対象に元年度から調査を実施している。元年度は第2トレンチで大量の瓦の集積と、礎石建物

の一部を確認したため、2年度は礎石建物の構造と瓦の集積との関係を把握するために調査区を拡張した。

その結果、礎石建物は東西3間以上×南北2間以上の総柱建物であることが分かった。柱間は1.4～1.5mとほぼ等間隔である。8世紀末～9世紀初頭に建築され、9世紀中頃～後半に廃絶したとみられる。また、瓦の集積は礎石建物廃絶後に形成されたものであることも分かった。さらに、礎石建物の西側では2条の南北溝に挟まれた壇上の高まりを確認した。

なお、当調査は3年度も調査を継続する予定である。



大宰府史跡第246次調査

○大宰府史跡第247次調査（政庁周辺官衙跡・日吉・五反田地区）

第247次調査地は政庁の南東、日吉地区と五反田地区の境界にあたる場所である。日吉地区には大宰府の官衙が広がっていることが想定されており、その詳細な状況把握を目的として、住宅建て替えに際して事前に確認調査を実施することとなった。

調査対象地全体の状況を把握するため、調査に際しては対象地の北西隅と南東隅にそれぞれ1ヶ所ずつトレンチを設定し、重機による掘削を実施した。

調査の結果、1トレンチでは地表下2.6mの深さまで区画整理時の客土が堆積していることを確認した。2トレンチでは地表下1.2mの深さまで客土が堆積し、その下層で旧表土等を確認したが、旧表土下には河川の氾濫に由来する砂層が堆積しており、遺構は広がっていないことが分かった。



大宰府史跡第247次調査

○大宰府史跡第248次調査（政庁周辺官衙跡・日吉地区）

第248次調査地は政庁の南東、日吉地区と呼ばれる地区内に位置する。遺構の有無を確認するため、住宅建て替えに際して事前に確認調査を実施することとなった。

調査に際しては、対象地北西隅と北東隅にそれぞれ1ヶ所ずつトレンチを設定し、重機による掘削を実施した。

調査の結果、1トレンチでは地表下2.9mの深さまで区画整理時の客土が堆積することを確認した。2トレンチでは地表下1.6mの深さまで客土が堆積し、その下層では河川の氾濫に由来する黒灰色粘土層が堆積し、遺構は広がっていないことが分かった。



大宰府史跡第248次調査

○大宰府史跡第249次調査（観世音寺境内及び子院跡 附老司瓦窯跡）

国指定史跡「観世音寺境内及び子院跡 附老司瓦窯跡」のうち、観世音寺北東の東観世団地については、史跡指定前に宅地造成が行われていたため、遺跡に関する情報が乏しい。そのため、旧地形との照合や確認調査を重ねて、遺跡の広がりや地形の把握を継続的に実施している。

第249次調査は、住宅建て替え計画に伴う事前確認調査である。調査に際しては現地形に沿って東西方向にトレンチを設定して、重機による掘削を実施した。

トレンチ東端部では現表土直下で花崗岩風化礫層を確認し、そこから西側に向かって急激に下降する地形を確認した。トレンチ中央付近では黄褐色の地山層と、その上に堆積する黒褐色の旧表土層を確認した。トレンチ西半部では地表下2mまで掘削を行ったが、厚い客土に覆われているため旧地形を確認することはできなかった。

調査の結果、当該地では東から西に急傾斜で下降する旧地形を確認したが、遺構や遺物は確認することができなかった。



大宰府史跡第249次調査

○大宰府史跡第250次調査（政庁周辺官衙跡・蔵司地区）

蔵司地区の丘陵部へと進入する経路、及び門等の関連施設の確認を目的として、現進入路の終点であり平坦面南端の中央に位置する当該地に対して、確認調査を実施することとなった。

調査の結果、第230次で検出した礎石建物の南側雨落ち溝と、原位置を留めていると思われる礎石1基を確認した。

3年度も引き続いて調査を実施し、特に礎石の延長については門等の関連施設である可能性もあるため確認作業を進める予定である。



大宰府史跡第250次調査

◎大宰府史跡調査研究指導委員会

大宰府史跡の調査研究にあたっては、遺跡の性格上あらゆる分野から総合的に取り組む必要があるため、考古学・歴史学・建築史学・造園学・都市工学・土木工学などの専門家で構成する「大宰府史跡調査研究指導委員会」を設置して、同委員会の指導のもとに5ヶ年計画を策定し、その計画に従い調査を進めている。

2年度の大宰府史跡調査研究指導委員会は、令和2年10月14日（水）・15日（木）の両日に開催した。

14日は、元・2年度に実施した発掘調査の成果と、水城跡整備事業に伴い大野城市が実施した発掘調査の成果を報告した。その他、大宰府外郭線の調査成果や筑紫野市前畑遺跡の調査、大野城跡増長天地区整備事業や大宰府史跡指定100年記念事業について報告した。

15日は、大宰府史跡の調査計画と今後のあり方について審議が行われた。

15日午後に審議事項の記者発表を行い、17日（土）に現地説明会を開催し、165名の参加があった。



大宰府史跡調査研究指導委員会

大宰府史跡調査研究指導委員会委員名簿

(令和2年度)

	氏 名	所 属	専 門
委 員 長	小田富士雄	福岡大学名誉教授	考古学
副委員長	佐藤 信	東京大学名誉教授	歴史学
委 員	坂上 康俊	九州大学大学院教授	歴史学
	森 公章	東洋大学文学部教授	歴史学
	増渕 徹	京都橘大学教授	歴史学
	山中 章	三重大学名誉教授	考古学
	松村 恵司	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所長	考古学
	亀田 修一	岡山理科大学教授	考古学
	箱崎 和久	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所	建築史学
	伊東 龍一	熊本大学大学院教授	建築史学
	渡辺 定夫	東京大学名誉教授	都市工学
	杉本 正美	九州芸術工科大学名誉教授	造園学
	尼崎 博正	京都造形芸術大学教授	造園学
	包清 博之	九州大学大学院芸術工学研究院教授	造園学
	末次 大輔	宮崎大学教授	土木工学

◎大宰府外郭線の調査・大宰府外郭線部会

筑紫野市前畑遺跡第13次調査で確認された「土塁状遺構」については、大宰府都城の外郭線を構成する古代の遺構の可能性が指摘された。そのため、九州歴史資料館では関連市町と連携し、大宰府外郭線を構成する遺構の有無や範囲を確認して大宰府の構造を理解するための調査研究を行い、今後の保存活用の基礎資料とすることとなった。

【関連自治体】

筑紫野市・春日市・大野城市・太宰府市・那珂川市・宇美町・小郡市・佐賀県・佐賀県基山町

【2年度】

- ・大宰府外郭線検討会（関連市町との連携による調査研究）を年3回開催した。
- ・大宰府史跡調査研究指導委員会 大宰府外郭線部会を、令和2年9月17日（木）と令和3年3月10日（水）の2回開催した。

第1回部会では、元年度発掘調査成果、2年度調査内容、筑紫野市前畑遺跡の調査について報告し、審議が行われた。

第2回部会はオンラインによる開催とした。2年度調査内容と今後の方針について報告し、審議が行われた。

大宰府史跡調査研究指導委員会 大宰府外郭線部会委員名簿

(2年度)

	氏 名	所 属	専 門
部 会 長	小田富士雄	福岡大学名誉教授	考古学
副部長	坂上 康俊	九州大学大学院教授	歴史学
委 員	亀田 修一	岡山理科大学大学院教授	考古学
	岩永 省三	九州大学総合研究博物館副館長	考古学
	末次 大輔	宮崎大学工学部	土木工学

2 年度大宰府外郭線調査一覧

調査次数	面積 (㎡)	調査期間	調査地区
図上検討・現地踏査	—	2020. 11. 25	筑紫野市牛島、永岡～針摺 筑紫～諸田
測量調査①	約21,700	2021. 3. 24	大宰府外郭線西側推定線
測量調査②	約29,900	2021. 3. 24	大宰府外郭線北東側推定線
大宰府外郭線第2次補足	9.0	2020. 9. 1～11. 19	春日市大土居水城跡西側丘陵
大宰府外郭線第3次	133.7	2020. 12. 1～3. 30	大宰府外郭線西南側推定線

○大土居水城跡第6次調査補足（大宰府外郭線第2次調査補足）

大土居水城跡から天神山水城跡へ延びる丘陵部分は、大宰府外郭線が想定される有力候補の一つであり、土塁状遺構の有無等を確認するため、元年度は大土居水城跡の土塁に隣接する尾根線上に3ヶ所のトレンチを設定し調査を実施した。その結果、外郭線に関連する古代の遺構等は確認されなかったが、1トレンチ南側斜面にある狭小な平坦地については、大宰府外郭線に関連する遺構が存在する可能性が指摘されたため、2年度に補足として確認調査を実施することとなった。

補足調査の結果、当該地では古代の遺構等を確認することはできなかった。



大土居水城跡第6次調査補足

○大宰府外郭線第3次調査

大宰府外郭線の踏査の結果、遺構が存在する可能性が高いと思われた、小郡市三沢地内の2地点について、大宰府外郭線第3次調査として発掘調査を実施した。

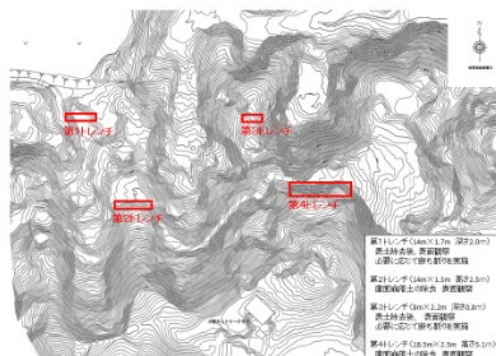
小郡C.C.北側の丘陵は旧地形をよく残しており、大宰府外郭線が通る蓋然性が高いと思われる2つの尾根線について発掘調査を実施した。

1トレンチは土塁状の地形を呈する箇所であったため断ち割り調査を実施したところ、近現代の積土層、無遺物層、弥生時代中期の包含層を確認した。

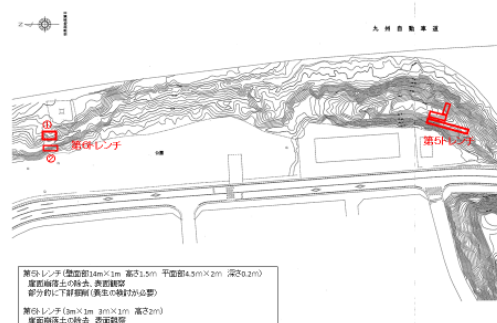
2トレンチは尾根線の断面露出箇所、断面の清掃と一部トレンチ掘削調査を実施した。大半の箇所では人為的痕跡を確認することができなかったが、西側斜面にて自然堆積ではない可能性のある層を確認した。

3トレンチは土塁状の地形を呈する箇所であり、断ち割り調査を実施した。その結果、人為的な痕跡は確認されなかった。

4トレンチは尾根線の断面露出箇所、断面の清掃を実施した。その結果、人為的な痕跡は確認されなかった。



大宰府外郭線第3次調査（1～4トレンチ）



大宰府外郭線第3次調査（5・6トレンチ）

小郡C.C.北側丘陵については、調査所見が不明確な点も残るため、3年度も引き続いて調査を実施する予定である。

小郡C.C.の西側にある桜町堤付近については、外郭線が通る蓋然性が高いと思われる2つの箇所について発掘調査を実施した。

5トレンチは縦断面が露出する箇所の清掃を行ったところ、非常に薄い砂層からなる堆積層を確認した。また、横断面のサブトレンチ調査を実施したところ、層の形成過程としては不明瞭であるが、層中から須恵器が出土した。

6トレンチは小河川の両側面を清掃して断面観察を行った。その結果、現状では人為的な痕跡は確認されなかったが、さらに上方を確認する必要性が示唆された。

なお、第3次調査については3年度も引き続いて実施する予定である。

○大宰府外郭線測量調査

大宰府外郭線の踏査の結果、遺構が存在する可能性が高いと思われた、大博多C.C.東側丘陵と、水城跡東側丘陵について、土塁状遺構の有無や周辺地形との関係を把握するため、測量調査を実施した。

大博多C.C.東側丘陵は筑紫野市と那珂川市の境界にある。踏査によって稜線上に旧山道の痕跡や土塁状の遺構が確認されたため、ドローンによるレーザー計測を業者に委託し、そのデータをもとに1/500、1/2,000地形図を作成した。



水城跡東側丘陵測量図

水城跡東側丘陵は狭い尾根線や土橋状の地形が確認された場所であり、ドローンによるレーザー計測を業者に委託し、そのデータをもとに1/500、1/2,000地形図を作成した。なお、当該地点については3年度に一部確認調査を実施する予定である。

◎古代歴史文化協議会

古代歴史文化にゆかりの深い全国14県が連携し、平成26年に「古代歴史文化協議会」が設立された。協議会では26年度から30年度までの第1期共同調査研究テーマを「古墳時代の玉類」とし、各県連携して調査研究や成果の普及活用を行ってきた。元年度から4年度までの第2期共同調査研究テーマは「弥生・古墳時代の刀剣類」とし、調査研究を行っている。

【古代歴史文化協議会加盟県】

埼玉県・石川県・福井県・三重県・兵庫県・奈良県・和歌山県・鳥取県・島根県・岡山県・広島県・福岡県・佐賀県・宮崎県（14県）

○2年度事業内容

- ・担当者Web会議を9月25日（金）、10月29日（木）、2月10日（水）に開催
- ・第12回研究集会を8月4日（火）～6日（木）島根県出雲市で開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症対策により中止
- ・第12回研究集会を11月30日（月）～12月2日（水）に宮崎県立西都原考古博物館で開催
- ・第5回古代歴史文化講演会を1月に明治大学で開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症対策により中止。

（２）展 示

◎常設展示

第１展示室では、「歴史（とき）の宝石箱」をテーマに、旧石器時代から近現代にいたる福岡県の歴史を、遺跡の出土品のほか、仏像・古文書・古地図などの実物資料の展示により、通史的に紹介している。福岡県さらには九州という広い視野から地域の歴史を学ぶことができる。文書や絵画資料については、資料の保全とリピーターの獲得、資料の調査研究の活性化を意図して約２か月ごとに展示替えを行っており、その都度、足を運んでももらえれば新しい資料との出会いがあるようにしている。

第２展示室では、大宰府政庁中門の10分の１復元模型を展示するほか、九州の地形や四国・本州との位置関係がわかるように中央の床面に九州の衛星写真を設置している。

第３展示室では、福岡県内出土の弥生土器や須恵器・古瓦などを時期別に並べ、形や文様・調整技術の移り変わりがわかる展示を行っている。引き出し式のケースには、貿易陶磁などの破片資料を資料群として展示しており、資料本来の多彩な色や文様、胎土等の様子を観察することができる。

第４展示室では、旧石器時代・縄文時代の炉跡や弥生時代の甕棺墓など、現地で保存することができない遺構を切り取って保存処理を施し、地中の遺跡を覗き込むような形で床下に展示している。

第１展示室においては、24年度から調査研究および展示の活性化とリピーターの獲得を目指して、常設展示の内容をより深化もしくは特化した内容の特集展示を開催している。2年度には、天皇陛下即位１周年を記念した特集展示「即位の大礼と福岡県」（５月19日～７月12日）や京都国立博物館考古資料相互活用促進事業による特集展示「北部九州の経塚遺宝―京都国立博物館考古資料相互貸借展―」（12月12日～２月28日）を行った。当初、大宰府跡出土木簡の重要文化財指定を記念した特集展示「木簡からみた古代の大宰府」（５月19日～７月５日）の開催を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、延期との判断に至った。3年度の冬に実施する予定である。

2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、４月１日から５月18日まで臨時閉館となり、常設展示および特集展示の公開も５月19日からとなった。

展示内容や歴史的な背景をより深く理解してもらうため、プレミアムフライデーにあわせて「夕べのギャラリートーク」を開催している。2年度は常設展示と特別展・企画展あわせて12回実施している。また、『教育福岡』の連載記事やケーブルテレビ、YouTubeなどを通じて、展示の紹介を行っている。

<常設展示「歴史の宝石箱」展示構成>

- 第１章 旧石器・縄文時代 狩猟と採集
- 第２章 弥生時代 稲作とクニ
- 第３章 古墳時代 北部九州の古墳文化
- 第４章 古代Ⅰ 大宰府史跡
- 古代Ⅱ 西海道大宰府
- 古代Ⅲ 仏教美術
- 第５章 中世Ⅰ その後の大宰府
- 中世Ⅱ 武士と戦乱の世
- 第６章 近世 「太平の世」の福岡
- 第７章 近代Ⅰ 「福岡県」の誕生とあゆみ
- 近代Ⅱ 絵図の世界



第１・３展示室

◎特集展示

○特集展示「即位の大礼と福岡県」

会期：令和2年5月19日（火）～7月12日（日）

※臨時閉館により3月25日（水）～5月17日（日）から変更

会場：第1展示室（一部）

主催：九州歴史資料館

内容：令和元年5月、我が国では新天皇陛下が即位され、さまざまな即位関連行事が執り行われた。一連の儀式で、即位の式典をはじめとする皇室行事に対して、広く国民の関心が向けられている。本展では即位から1周年の節目にあわせて、当館と福岡共同公文書館に残された、大正・昭和の即位の大礼に関する資料を紹介した。当館所蔵の永江文書に残された大正天皇即位の大礼時の参列者用資料や、昭和天皇の大嘗祭で福岡県が主基齋田の地を担った際の公文書などを展示し、即位の大礼の一端と、福岡県とのかかわりについて紹介した。また、展示の直前に直方市在住の方より寄贈された、昭和4年の新嘗祭における粟の献穀に関する資料も展示している。

なお本展は当初、天皇陛下御即位1周年となる5月1日をはさんだ日程で開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う臨時閉館により、当初予定での展示が不可能となった。そのため借用資料の所蔵者である福岡共同公文書館の理解を得て、再開館後の日程に会期を変更して開催した。また当初の会期中（閉館期間中）は、展示設営は完了していながらも開催は不透明であったため、代替措置としてオンラインによる展示紹介（担当学芸員によるギャラリートーク）を6回分撮影し、当館名義の「YouTube」に投稿した。これは、当館による「YouTube」上での動画投稿の端緒となった。

また会期中、ギャラリートークを7月3日（金）と7月10日（金）の2回予定していたが、1回目は受講申込がなく、2回目は当日が暴風雨となり開催が危険と判断されたため、いずれも中止された。



特集展示「即位の大礼と福岡県」展示風景

○特集展示「北部九州の経塚遺宝—京都国立博物館考古資料相互貸借展—」

会期：令和2年12月12日（土）～令和3年2月28日（日）

会場：第1展示室（一部）

主催：九州歴史資料館

内容：仏教では釈尊入滅後、その正しい教えが時間とともに徐々に失われていき、正法、像法のとくときを経て末法の時代が来ると考えられた。そして、これより56億7千万年後に未来仏と呼ばれる弥勒仏が如来として覚醒し世に現れ、正しい法のとくときが訪れ、衆生を救うという。これを「末法思想」と呼び、わが国では永承7年（1052）が末法に入ったとされる。仏教を信じていた多くの人々の中から「救い」を求めて、妙法蓮華経などの写経を行い、経筒に収め、塚に埋納するという行為が各地で行われるようになり、11世紀後半から12世紀にかけて流行する。九州では福岡から鹿児島まで多くの経塚が造営された。その分布の中心は玄界灘や響灘に面した北部九州地域と宇佐・国東半島を中心にした豊前・豊後地域である。そして、福岡は経塚造営の一大中心地であった。福岡には霊山と呼ばれる山岳霊場も多く、四王寺山、英彦山、求菩提山、脊振山、油山、首羅山などそのほとんどといってよいほど経塚が造営されている。本展では四王寺山の出土品を中心に、京都国立博物館考古資料相互活用促進事業での借用品と当館館蔵品等を展示した。

主な展示品は以下の通りである。

銅製経筒・土製外筒（伝四王寺山経塚出土）・白磁経筒（伝四王寺山経塚出土）・瓦経（飯盛山経塚出土）【いずれも京都国立博物館】・福岡県指定文化財 瓦経（飯盛山経塚出土・糸島高校所蔵）・褐釉経筒・銅製経筒（四王寺山経塚群毘沙門堂B-2・D-1・福岡県立筑紫丘高校）・銅製経筒・青白磁合子・白磁碗（石垣山観音寺経塚出土・石垣山観音寺）・福岡県指定文化財 伝白山神社経塚出土一括品（九州歴史資料館）・重要文化財 筑前国四王寺趾経塚群出土品（①紙本経②銅製経筒（村上経塚出土）③④⑤銅製経筒⑥⑦青白磁小壺・合子⑧和鏡（四王寺山経塚群毘沙門堂経塚）【いずれも宇美八幡宮】



特集展示「北部九州の経塚遺宝」展示風景

◎九州歴史資料館移転開館10周年記念特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」

会期：令和2年10月6日（火）～11月29日（日）

会場：第1展示室

主催：九州歴史資料館

特別協力：独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター・東京国立博物館

内容：本展覧会は、九州歴史資料館が令和2年に太宰府市から小郡市に移転して開館10周年を迎えたことを記念して、県外に所在する福岡県ゆかりの考古、歴史、美術、工芸などの様々な分野における至宝、名品を一堂に会す展覧会を行った。単なる里帰り展示ではなく、福岡県の悠久の歴史をもの語る考古遺物や歴史資料、アジアとの交流で育まれた美術や工芸などの諸作品の中でも、福岡の成り立ちやその展開、発展を考える上で必要不可欠な文化財について、特に「信仰と美」に関連する作品を展示した。このような趣旨から下記の通り7章に分け展示を行った。主な展示品は下記の通りである。

第1章 祭祀と美の萌芽：重要文化財 銅戈溶范（岡垣町吉木出土 東京大学総合研究博物館）、重要文化財 銅戈（春日市小倉新池出土 京都国立博物館）・三角縁神獣鏡（糸島市一貴山銚子塚古墳出土 京都大学総合博物館）

第2章 経塚遺宝：重要文化財 銅製経筒・如来立像（伝福岡県出土 奈良国立博物館）・重要文化財 銅製経筒・菩薩立像（太宰府市宝満山経塚出土 文化庁）

第3章 大宰府 信仰の拠点：国宝 延喜五年観世音寺資財帳（東京藝術大学）・国宝 観世音寺金堂長講僧解案 東大寺文書（奈良・東大寺）・重要文化財 大宰府牒・宮崎宮塔院牒 石清水八幡宮文書（京都・石清水八幡宮）

第4章 円珍・円爾の事績：国宝 僧円珍牒 智証大師関係文書（滋賀・園城寺）・国宝 尺牘（板渡しの墨蹟） 無準師範筆（東京国立博物館）・重要文化財 仏鑑禅師墨蹟 円爾号 無準師範筆・円爾自筆法語（京都・東福寺）

第5章 華開く信仰の美：重要文化財 玉垂宮縁起（福岡・玉垂宮、京都国立博物館寄託）・重要文

化財 金銅板両界曼荼羅 柳川市清楽寺旧蔵（茨城・徳満寺、東京国立博物館寄託）・重要文化財
鰐口 芦屋（山口・今八幡宮蔵、山口市歴史民俗資料館寄託）・山口県指定文化財 鰐口 芦屋（山口・美栄神社蔵、下関市立歴史博物館寄託）

第6章 芦屋釜と茶道具の世界：重要文化財 浜松図真形釜 芦屋（文化庁）・重要文化財 霰地楓鹿図真形釜 芦屋（京都・細見美術館）・上野太鼓形花入 上野焼（熊本・松井文庫）・肩衝茶入 高取・内ヶ磯窯（東京・静嘉堂文庫美術館）

第7章 黒田家の名宝：重要文化財 唐絵手鑑「筆耕園」 黒田家伝来（東京国立博物館）・重要美術品 井戸茶碗 銘「奈良」 黒田家伝来（東京・出光美術館）・源氏物語 若紫 黒田継高旧蔵 大河内家伝来（個人蔵）

なお、本事業は国立文化財機構文化財活用センターの2020年東京国立博物館収蔵品貸与促進事業実施対象館として輸送費・保険料などを文化財活用センターが負担した。また、京都国立博物館考古資料相互活用促進事業（別記）で借用した経塚資料などもあわせて展示した。

当館主催イベントは以下のとおりである。

特別講演会 第1回：

10月31日（土） 伊藤嘉章氏（町田市立博物館館長・愛知県陶磁美術館総長）
「茶陶から見た高取・上野焼」

特別講演会 第2回：

11月22日（日） 藤本孝一氏（龍谷大学客員教授・元文化庁主任文化財調査官）
「新出・藤原定家本源氏物語『若紫』について」

タベのギャラリートーク：

10月23日（金）・30日（金） 遠藤啓介（当館学芸員、工芸）
11月20日（金）・27日（金） 松川博一（当館学芸員、歴史）

九歴講座：10月10日（土） 酒井芳司（当館学芸員）「大宰府ゆかりの古文書」

11月14日（土） 新郷英弘氏（芦屋釜の里学芸員）「芦屋釜の歴史と名品」

イベント：11月8日（日） 開館10周年記念イベント

11月21日（土） アクロスミュージアムコンサート in 九州歴史資料館

アクロス・文化学び塾（アクロス福岡主催事業）

10月24日（土） 遠藤啓介（当館学芸員）「福岡の至宝に見る信仰と美を楽しむ」

総点数：89件

図録：A4版、164頁、頒価1,300円



特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」展示風景



特別展ポスター

○東京国立博物館収蔵品貸与促進事業（国立文化財活用センター事業）

本事業は文化財活用センターと東京国立博物館が共同で「収蔵品貸与促進事業」に取り組み、地域文化の創生や観光の振興を目的としている。地方公共団体の博物館や美術館に対して文化財活用センターが作品輸送費用等を負担し、東京国立博物館の収蔵品を貸与する事業である。特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」開催に当たっては、下記27件の作品が貸与された。

貝輪（朝倉市平塚字栗山出土・4個）・夔鳳鏡（伝春日市須玖岡本遺跡出土）・内行花文鏡（筑前町東小田峯遺跡出土）【いずれも弥生時代】・垂飾付耳飾・金環・ガラス小玉・単鳳環頭柄頭・須恵器子持付壺2個【いずれも春日市日拝塚古墳出土・古墳時代】・滑石経（筑後市若菜八幡宮出土2枚）・銅経筒・外容器・青白磁合子・青白磁小壺2個・経巻（宗像市山田経塚出土）・瓦経（福岡市西区飯盛山経塚出土）【いずれも平安時代】・遠山五匹馬図釜・鳥図釜銘「濡鳥」【いずれも芦屋釜・室町時代】・片身替釉州浜形向付（高取焼・江戸時代）・国宝 聖一国師あて尺牘・重要文化財 禅院額字「釈迦宝殿」【いずれも無準師範筆・南宋時代】・重要文化財 筆耕園（黒田家伝来・南宋～明時代）

○京都国立博物館考古資料相互活用促進事業

本事業は京都国立博物館蔵品から考古・陶磁資料の福岡県出土のものについて、当館から弥生・古墳時代を中心に考古資料を京都国立博物館へ約1年間貸出した。相互に考古資料を貸借し、調査や展示などを行うものである。実施に当たっては実施覚書を交わして行い、費用は京都国立博物館がもつものである。当館では、常設展示、特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」、企画展「北部九州の経塚遺宝」で展示を行い、京都国立博物館では常設展示の中で「九州と近畿の弥生・古墳時代—弥生時代の成立と埴輪・須恵器—」として第1期：令和2年6月30日（火）～9月13日（日）、第2期：令和2年12月19日（土）～令和3年2月28日（日）で当館所蔵品が展示された。なお、相互活用促進事業での借用貸出品については以下の通り。

京都国立博物館貸出品：銅鋤先（うきは市鳥越出土・弥生時代）・銅製経筒・土製外筒・宋青白磁経筒【いずれも太宰府市・宇美町四王寺山経塚出土・平安時代】・瓦経（福岡市西区飯盛山経塚出土・平安時代、2枚）

当館貸出品：壺（福岡市板付遺跡出土）・壺（筑紫野市野黒坂遺跡出土）・壺（筑紫野市貝元遺跡）・壺（糸島市三雲遺跡出土）・壺（うきは市鷹取五反田遺跡出土）・壺（糸島市石崎曲り田遺跡出土）・甕（糸島市石崎曲り田遺跡出土）・福岡県指定文化財 広形銅矛（うきは市日永遺跡出土）・福岡県指定文化財 広形銅戈（うきは市日永遺跡出土）【いずれも弥生時代】・青銅鏡・青銅鏃・五銖銭・貸泉【いずれも福岡市西新町遺跡出土・古墳時代】・円形・方形極先瓦【いずれも小郡市井上薬師堂遺跡・飛鳥時代】・蔵骨器（朝倉市大迫遺跡・奈良時代）

◎企画展

2年度は、第1展示室の一部および第2・4展示室を会場として、6回の企画展を実施した。企画展は、例年、学校教育支援を目的としたもの、文化財調査室が行う発掘速報展、館蔵品を紹介するコレクション展、第1展示室の約3分の1を使って行う大型の企画展というラインナップとなっている。

春には小学6年生の歴史学習を支援する第49回企画展「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくりー」を開催した。これまで速報展として実施してきた文化財調査室担当の企画展については、2年度は元年度まで実施していた「福岡県戦争遺跡調査」の成果展として第56回企画展「出土品から見た『福岡県の戦争遺跡』展」を開催した。

2年度に特徴的な企画展としては、重点施策「福岡県国際交流史発信事業」で実施した、古墳時代の国際交流にスポットを当てた第57回企画展「福岡の古代豪族」と、江戸時代の国際交流を対象とした第59回企画展「朝鮮通信使と福岡ー福岡県朝鮮通信使総合調査成果展ー」がある。

また、他館との連携による展示も積極的に実施している。第57回企画展「福岡の古代豪族」は、宗像大社神宝館、九州国立博物館、海の道むなかた館、福津市歴史資料館との「神宿る」宗像・沖ノ島と関連遺跡群調査研究成果5館連携展覧会「ムナカター祈り・暮らし・交わりー」の一部であり、第60回企画展「三池港と洞海湾ー「明治日本の産業革命遺産」企画展3」は、北九州市立自然史・歴史博物館、大牟田市石炭産業科学館、中間市地域交流センターとの巡回展である。

○第55回企画展「きゅうおにとタイムトラベルー大昔のくらしと国づくりー」

会期：令和2年5月19日（火）～7月12日（日）

※臨時閉館により3月25日（水）～5月17日（日）から変更

会場：第2展示室

主催：九州歴史資料館

内容：福岡の大昔の人たちはどのような服を着ていたのか、食べ物は何を食べて暮らしていたのか、また日本の国はどのように形作られたのか。そのような大昔の歴史の疑問を、九州歴史資料館のイメージキャラクターである「きゅうおに」とともに縄文・弥生・古墳・奈良の各時代をタイムトラベルしながら探っていく小学生とくに歴史をはじめて学ぶ高学年の子供たちを対象とした展示である。教育普及の観点を重視し、歴史学習をより楽しくできるように、わかりやすくするために実物資料だけではなくレプリカやイラストパネルを多用した。第1展示室では実現しにくかった子供たちへむけての展示を实践でき、さらに親や先生、同級生などと一緒に楽しめる企画でもある。

リーフレットについては、これまで縄文・弥生・奈良時代を紹介したものであったが、古墳時代コーナーの新設を反映して奈良時代にかわり古墳時代を入れたものに改訂した。



企画展「きゅうおにとタイムトラベル」展示風景



「きゅうおにとタイムトラベル」リーフレット

○第56回企画展 調査成果展 出土品から見た「福岡県の戦争遺跡」展

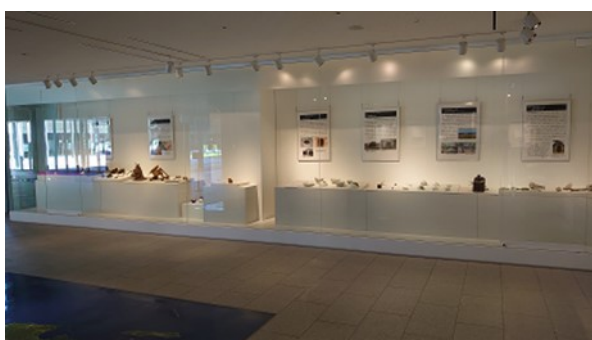
会期：令和2年7月14日（火）～9月13日（日）

会場：第2・4展示室

主催：九州歴史資料館

内容：当館では県内各地に所在する遺跡の発掘調査を継続的に実施しており、郷土の歴史を知る上で数々の成果を挙げている。23年度から毎年、前年度に行った発掘調査の成果を公開する企画展示「発掘速報展」を開催していたが、2年度は、元年度で調査が終了し、成果報告書を刊行した「福岡県戦争遺跡調査」の成果を基に、過去に県内各所で実施した発掘調査において出土した戦争に関わる出土資料および関連する遺構の写真パネル展示を行った。

関連事業として、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を考慮し、会期中の7月31日（金）と8月7日（金）の2回に分けて定員を限定したタペのギャラリートーク（展示資料解説）を実施した。



調査成果展 出土品から見た「福岡県の戦争遺跡」展 展示風景

○第57回企画展「福岡の古代豪族」

会期：令和2年9月15日（火）～11月29日（日）

会場：第2・4展示室

主催：九州歴史資料館、宗像大社神宝館、九州国立博物館、海の道むなかた館、福津市複合文化センター歴史資料館、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会

内容：福岡県では「筑紫君」や「胸形君」といった古代豪族の名前が知られている。本企画展では、豪族たちの奥津城として知られる古墳の出土品や集落遺跡の出土品を、豪族が本拠地とした地域とともに紹介することによって、福岡県で活躍した古代豪族の姿を浮かび上がらせることを目的とした。

展示構成は第1章（胸形君）、第2章（秦氏）、第3章（筑紫君）、第4章（的臣）とし、各豪族の歴史性に絡めた特徴的な遺物や写真パネルを展示した。

なお、本企画展は福岡県の重点施策「福岡国際交流史発信事業」で実施した「沖ノ島と関連遺産群から出土した玉類」の調査研究成果の公開を企図しており、世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の5館連携展覧会「ムナカター祈り・暮らし・交わりー」の一部を構成するものである。

開催期間中の10月16日（金）・11月13日（金）にギャラリートークを開催した。

図録：A4版、28頁、無料頒布

（5館連携展覧会図録、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会編集・発行）



企画展「福岡の古代豪族」展示風景

○第58回企画展「古代・中世の人々の暮らし」

会期：令和2年12月1日（火）～令和3年4月18日（日）

会場：第2展示室

主催：九州歴史資料館

内容：本展覧会は古代や中世に描かれた絵巻物「伴大納言絵詞」「鳥獣戯画」「源氏物語絵巻」（いずれも複製品）などの中に描かれた器物について、実際に出土した類似品を展示することで、古代や中世の人々の生活をより分かりやすくし、感じてもらうものである。展示では古代中世の人々の暮らしがよくわかるように解説なども充実させた。主な展示品は以下の通り。

国宝「伴大納言絵詞」（複製品）・国宝「鳥獣人物戯画」（複製品）・国宝「源氏物語絵巻」（複製品）

須恵器甕（延永ヤヨミ園遺跡出土）・軒先・軒丸瓦（大宰府史跡出土）・毬打（大宰府条坊跡出土）・木製曲物（御笠川南条坊遺跡出土）・木製下駄（大宰府史跡出土）・白磁鉄絵四耳壺（伝大分県中津市出土）【いずれも当館所蔵】



企画展「古代・中世の人々の暮らし」展示風景

○第59回企画展「朝鮮通信使と福岡—福岡県朝鮮通信使総合調査成果展—」

会期：令和2年12月12日（土）～令和3年2月14日（日）

会場：第1展示室（一部）

主催：九州歴史資料館

内容：平成29年10月31日に「朝鮮通信使に関する記録：17世紀～19世紀の日韓間の平和構築と文化交流の歴史」が、ユネスコの「世界の記憶（世界記憶遺産）」に登録されて3周年になることと、登録資料である黒田家文書『朝鮮人來聘記』と『朝鮮人帰国記』の修理完成を記念し、さらに30年度より継続する福岡県朝鮮通信使総合調査の成果展として開催した。

朝鮮通信使は、江戸時代、朝鮮から日本へ国書を持って派遣された外交使節で、豊臣秀吉の朝鮮侵略で断絶した国交の回復交渉中に派遣された使節を第1回（1607年）とすると、おもに将軍の代替わりを祝うため、第12回（1811年）まで派遣された。

世界の記憶「朝鮮通信使に関する記録」は、日本側の資料48件209点、韓国側の資料63件124点、合計で111件333点がある。このうちの「Ⅱ旅程の記録」として、福岡県内の資料では、宝暦13～14年（1763～64）の第11回の使節の往路と復路の対応の記録である黒田家文書の15冊と、文化8年（1811）の最後の使節に関する記録である小笠原文庫の6冊、計21冊が登録された。

本展は、世界の記憶に登録された黒田家文書15冊を公開するもので、あわせて県内で登録された小笠原文庫の資料6冊も展示した。この展示において、対馬藩とともに福岡藩と小倉藩が、誠意をもって朝鮮通信使を歓待し、信頼と友好のうちに交流していたことを振り返ることによって、海をはさんで隣り合う日本と韓国の将来にわたる友好が続くことを深く祈念するものとした。

関連事業として、相島の朝鮮通信使客館跡の発掘調査を担当した新宮町教育委員会の西田大輔氏



企画展「朝鮮通信使と福岡」展示風景

に調査成果を2月13日（土）の九歴講座にて講演いただく予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するための緊急事態宣言の延長のため、中止となった。

○第60回企画展「三池港と洞海湾～「明治日本の産業革命遺産」企画展3～」

会期：令和3年2月17日（水）～3月14日（日）

会場：第1展示室（一部）

主催：「明治日本の産業革命遺産」福岡県世界遺産連絡会議

共催：九州歴史資料館、北九州市立自然史・歴史博物館、大牟田市石炭産業科学館、中間市教育委員会

協力：芦屋町歴史民俗資料館、黒崎歴史ふれあい館、戸畑祇園大山笠振興会、福津市教育委員会、若築建設株式会社・わかちく史料館、水落勝氏

内容：「明治日本の産業革命遺産」は、近代日本の重工業分野の発展を示す世界文化遺産で、福岡県内では官営八幡製鐵所や三池炭鉱が構成資産に含まれている。この世界遺産について、広く県民の理解の増進を図るため、30年度より福岡県内の関連博物館等において巡回展が開催されてきた。この巡回展は「明治日本の産業革命遺産」福岡県世界遺産連絡会議が主催するもので、元年度からは当館も共催として参加し、当館企画展の形式で開催している。



企画展「三池港と洞海湾」展示風景

2年度においても、当館は巡回展に共催し、企画展を開催した。本展では港湾がメインテーマとなり、三池炭鉱と官営八幡製鐵所に関する港湾である、三池港と洞海湾について紹介した。展示では三池港の模型や、洞海湾沿岸の都市を描いた吉田初三郎の鳥瞰図の原図、さらに豊富なパネルなどにより、産業革命遺産となった施設を支えた港湾と、その地に形成された街について、幅広く紹介した。

◎パネル展

パネル展は、県内各地に残る多様な文化財を紹介し、またこれまで福岡県が行ってきた調査研究の成果を公開することを目的に、当館2階の文化情報広場等において実施している。

2年度は、例年行っている西谷正名誉館長の写真展、保存科学機器による最新成果を紹介するパネル展などのほか、当館の移転開館10周年を記念したポスター展なども開催したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、日程変更や会期短縮となったものも多く見られた。なお、毎年行っていた筑紫地区文化財パネル展は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、開催自体が見送られている。

また玄関右側の回廊では、三沢遺跡の紹介するパネル展も継続して行った。



三沢遺跡紹介パネル

○パネル展「新九州歴史資料館10年のあゆみ—展覧会ポスター展—」

会期：令和2年5月19日（火）～6月14日（日）・10月6日（火）～11月29日（日）

※臨時閉館により3月17日（火）～6月14日（日）から変更

会場：文化情報広場（5月19日～6月14日）

第1展示室前（10月6日～11月29日）

主催：九州歴史資料館

内容：令和2年は、当館が福岡県太宰府市から小郡市の現在地へ移転開館して10周年となる節目の年である。本展ではこの移転開館10周年を記念して、歴代の展示ポスターから当館10年間の活動を紹介する展示とした。展示では全ての特別展のポスターと、一部の企画展のポスターを展示し、特集展示とパネル展のポスターも一部を合同パネルで展示して、当館10年の軌跡を改めて紹介した。

なお本展は当初、3月17日から文化情報広場で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う臨時閉館により、再開後の5月19日から開催された。また文化情報広場での展示終了後、10月6日から11月29日まで、特別展会場である第1展示室の前の廊下でも開催した。



パネル展ポスター

○パネル展「邪馬台国への道 前編」

会期：令和2年6月16日（火）～9月13日（日）・12月1日（火）～3月28日（日）

会場：文化情報広場

主催：九州歴史資料館

内容：『魏志』倭人伝に記された邪馬台国は、かつて倭国と呼ばれていた日本列島に存在したクニ（国）で、女王卑弥呼が統治したことで広く知られている。邪馬台国の所在地についてはさまざまな説があるが、『魏志』倭人伝に記された大陸から邪馬台国に至る道沿いの国々には、九州に比定されているものもある。そしてこの邪馬台国への道に面した国々の遺跡については、当館の西谷正名誉館長が長年研究を行い、数多くの写真も撮影されてきた。

本展では、2年度に開催予定であった名誉館長講座「邪馬台国への道」にあわせ、大陸から邪馬台国に至る道沿いの国々の遺跡について、2回シリーズで紹介することとした。前編では、魏の都・洛陽から朝鮮半島、対馬、壱岐を経由して、九州本土に上陸するまでの国々の遺跡を、西谷名誉館長撮影の写真パネルで取り上げた。

なお本展は当初、6月16日から9月13日に前編、12月1日～3月まで後編を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策で名誉館長講座の日程が変更され、2年度は中途の内容までの開催となったため、双方の会期で前編を開催し、講座受講者が十分な期間観覧できるようにした。後編については、3年度での開催を予定している。



パネル展「邪馬台国への道 前編」展示風景

○パネル展「世界遺産『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺跡群」

会期：令和2年9月15日（火）～11月29日（日）

会場：文化情報広場

主催：九州歴史資料館

内容：「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺跡群」は、福岡県宗像市を中心に広がる遺跡群で、29年度にユネスコの世界文化遺産に登録された。当館では登録前の移転開館当初から、福岡県世界遺産室と共同で、この「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺跡群」に関するパネル展を実施し、登録に向けた機運の熟成と、登録後の理解の増進に努めてきた。2年度も例年と同様、福岡県世界遺産室作成の「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺跡群」の紹介パネルを展示し、福岡県が誇る世界遺産について、広く紹介する展示とした。



パネル展ポスター

○パネル展 保存科学成果展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2020 - 2021」

会期：令和3年3月30日（火）～7月11日（日）

会場：文化情報広場

主催：九州歴史資料館

内容：全国的に注目を集めている古賀市船原古墳では、遺物埋納坑出土馬具を中心に様々な科学的調査が進められている。2年度までに実施した調査や保存処理により明らかになった最新情報をパネルで紹介した。



パネル展「保存科学成果展」展示風景



パネル展ポスター

(3) 資料利用

本館では、他機関の展示のため所蔵資料の貸出を行っている。考古資料のほか、文書・典籍資料、写真資料も貸出しており、令和2年度においては以下のとおり利用があった。また、他機関や学生による資料調査などの一時利用を受け入れており、平日以外にも、日曜日の閲覧希望も基本的に対応している。令和2年度の実績は考古資料貸出42件、同一時利用29件(延べ38日間)、文書・典籍等資料貸出5件、同一時利用30件、写真資料貸出・掲載許可110件である。

考古資料の短期貸出一覧

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	九州国立博物館	14点	勝浦峯ノ畑古墳出土鉄刀、刀子	文化交流展『海の道、アジアの路』の展示のため	2. 7. 22～3. 1. 31
2	太宰府市文化ふれあい館	9点	大野城跡出土瓦 他	『まるごと太宰府歴史展2020』の展示のため	2. 8. 4～11. 11
3	嘉麻市碓井図書館	1点	4×5 inカメラ	企画展示『写真機のはなし』の展示のため	2. 8. 26～12. 2
4	ミリカローデン那珂川	15点	深原遺跡出土縄文土器	文化財展示会『那珂川黎明2020－那珂川市の縄文時代』の展示のため	2. 10. 23～12. 25
5	中津市歴史博物館	9点	上唐原了清遺跡出土土偶 他	『発掘された日本列島地域展』の展示のため	2. 12. 24～3. 3. 4
6	筑紫野市教育委員会	一式	野黒坂遺跡図面、写真	報告書作成のため	3. 2. 19～5. 31
7	行橋市歴史資料館	102点	金屋遺跡出土遺物 他	企画展『ゆくはしの地下を掘る－辻垣遺跡群・津留遺跡・金屋遺跡出土品里帰り展』	3. 2. 26～4. 28
8	遠藤喜代志	1点	若八幡宮古墳出土三角縁神獣鏡模造作品	『鑄金の道 遠藤喜代志作品展』の展示のため	3. 3. 26～5. 中旬

考古資料の長期貸出一覧（１）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
1	京都国立博物館	4点	永岡遺跡出土甕棺 他	展示等利活用のため	1. 7. 1～4. 6. 30
2	京都国立博物館	1点	筑後石人山石棺石膏製模型	展示等利活用のため	1. 7. 1～4. 6. 30
3	大韓民国国立羅州文化財研究所	1点	道場山遺跡甕棺	常設展示のため	29. 2. 1～2. 1. 31
4	九州国立博物館	225件	門田遺跡出土細石刃 他	文化交流展示室展示等のため	2. 4. 1～3. 3. 31
5	九州国立博物館	2点	徳永川ノ上遺跡出土内行花文鏡 他	文化交流展示室展示等のため	2. 4. 13～3. 3. 31
6	国立歴史民俗博物館	9点	広田遺跡出土浅鉢・深鉢 他	総合展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
7	岩手県立博物館	4点	永岡遺跡出土弥生土器、甕棺	展示及び調査研究のため	2. 4. 1～3. 3. 31
8	粕屋総合庁舎	20点	箱崎遺跡出土資料	展示ケース展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
9	甘木歴史資料館	42件	楠田遺跡出土縄文土器 他	常設展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
10	求菩提資料館	10点	銅製経筒・草花双鳥鏡・蓬莱鏡	常設展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
11	福岡市博物館	2点	西新町遺跡出土土器	常設展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
12	老司公民館	6点	大宰府史跡出土瓦	展示ケース展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
13	（公財）古都大宰府保存協会	33点	大宰府史跡出土資料	常設展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
14	大野城市牛頸ダム記念館	112点	牛頸須恵器窯跡出土須恵器、写真パネル	牛頸ダム記念館展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
15	筑紫野市歴史博物館	108点	剣塚遺跡出土資料 他	筑紫野市歴史博物館展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
16	直方市教育委員会	72点	内ヶ磯窯跡出土陶器	直方谷尾美術館展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
17	古賀市教育委員会	19点	水上A遺跡出土縄文土器 他	古賀市歴史資料館展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
18	春日市教育委員会	6点	伯玄社遺跡出土磨製石鏃 他	奴国の丘歴史資料館展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
19	伊都国歴史博物館	246点	三雲南小路遺跡出土資料 他	常設展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
20	八女市教育委員会	1点	真浄寺古墳出土短甲 2号	岩戸山歴史資料館展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31

考古資料の長期貸出一覧（２）

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	貸出期間
21	小郡市埋蔵文化財調査センター	一式	津古内畑遺跡出土資料、記録	報告書作成のため	2. 4. 1～3. 3. 31
22	筑前町教育委員会	174箱	依井遺跡出土資料 他	筑前町歴史民俗資料館等で展示、報告書作成のため	2. 4. 1～3. 3. 31
23	粕屋町歴史資料館	76箱	駕与丁池遺出土資料 他	粕屋町歴史資料館展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
24	香春町教育委員会	84点	陣山屋敷遺跡出土資料 他	香春町歴史資料館展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
25	みやこ町教育委員会	25点	徳永川ノ上遺跡出土資料 他	みやこ町歴史民俗博物館展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
26	鞍手町教育委員会	10件	銀冠塚古墳出土資料 他	鞍手町歴史民俗資料館展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
27	篠栗町教育委員会	117点	高田遺跡出土資料 他	篠栗町中央公民館展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
28	須恵町教育委員会	419点	乙植木古墳群出土資料	須恵町立歴史民俗資料館展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
29	福津市教育委員会	一括	津屋崎古墳群出土資料等	福津市歴史資料館展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
30	筑波大学	一括	立明寺古墳群出土資料	大学における教育等に活用するため	2. 4. 1～3. 3. 31
31	太宰府館	9点	大宰府史跡出土瓦	太宰府館における展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31
32	宮城県多賀城跡調査研究所	23点	大宰府政庁跡出土磁器	磁器の産地・年代同定する参考資料にするため	2. 4. 1～3. 3. 31
33	埼玉県立歴史と民俗の博物館	2点	永岡遺跡出土甕棺	常設展示のため	2. 9. 1～3. 8. 31
34	栃木県立博物館	2点	門田遺跡出土甕棺	常設展示のため	2. 10. 1～3. 9. 30

考古資料の一時利用（資料見学等）

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	個人	11点	郷ヶ原遺跡出土砥石 他	調査研究のため	2. 6. 8・9
2	個人	8点	勝浦峯ノ畑古墳出土鏡	調査研究のため	2. 7. 28・29
3	個人	1点	曲り田遺跡出土土器	調査研究のため	2. 7. 9
4	個人	2点	中村西峰尾遺跡出土線刻石 他	調査研究のため	2. 7. 17
5	個人	3点	七板遺跡出土砥石 他	調査研究のため	2. 7. 28
6	個人	2点	若八幡古墳出土鉄刀	調査研究のため	2. 8. 18
7	個人	3点	大宰府史跡出土土器	論文作成のため	2. 8. 20
8	個人	5点	上唐原遺跡出土砥石 他	調査研究のため	2. 8. 19
9	中津市歴史博物館	9点	上唐原了清遺跡出土土偶 他	展示のための資料調査	2. 8. 19
10	個人	2点	神手遺跡出土砥石	調査研究のため	2. 9. 8

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
11	個人	22点	宝満山遺跡出土鋳型	調査研究のため	2. 9. 14
12	個人	871点	大宰府史跡出土金属生産関連遺物	調査研究のため	2. 10. 5～8
13	個人	2点	勝浦峯ノ畑古墳出土鏡	調査研究のため	2. 10. 7
14	九州国立博物館	1点	立野遺跡出土筒形銅器	展示のための資料調査	2. 10. 13
15	宮若市教育委員会	26点	都地遺跡出土縄文土器他	展示のための資料調査	2. 10. 21
16	個人	2点	西新町遺跡出土砥石	調査研究のため	2. 10. 20
17	個人	7点	三雲遺跡出土壺	調査研究のため	2. 11. 6
18	大田区立郷土博物館	105点	徳永川ノ上遺跡出土玉類 他	展示のための資料調査	2. 12. 3
19	個人	5点	汐井掛古墳出土鉄製紡錘車 他	卒業論文執筆のため	2. 12. 8
20	個人	299点	門田遺跡出土石器 他	調査研究のため	2. 12. 9～11
21	個人	5点	柏田遺跡出土土器	調査研究のため	2. 12. 13
22	個人	9点	井上薬師堂遺跡出土墨書土器	卒業論文執筆のため	2. 12. 1
23	大野城市教育委員会	31点	大宰府史跡出土陶硯	報告書作成のため	2. 12. 10
24	九州国立博物館	113点	立野遺跡出土筒形銅器、舌 他	展示のための資料調査	2. 11. 19、12. 4
25	個人	1点	観世音寺出土軒丸瓦	調査研究のため	3. 1. 6
26	個人	2点	代古墳出土圭頭大刀把頭 他	調査研究のため	3. 1. 25・26
27	大野城市教育委員会	1点	御供田遺跡出土硯	報告書作成のため	3. 1. 14
28	個人	2点	筑前国分寺出土土製仏像頭部 他	調査研究のため	3. 2. 5
29	個人	7点	大宰府政庁跡出土埴埴	調査研究のため	3. 2. 28

文書・典籍資料等の短期貸出一覧

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	利用期間
1	柳川古文書館	28点	永江文書・野田大塊文書	企画展「柳川の自由民権運動」における展示	2. 9. 16～2. 12. 3

文書・典籍資料等の長期貸出一覧

番号	貸出先	点数	貸出資料名	貸出目的	利用期間
1	筑豊高等学校	223点	筑豊工業高校資料	資料室における展示	2. 4. 1～3. 3. 31
2	福岡県青少年科学館	90点	筑豊工業高校資料	常設展示	2. 4. 1～3. 3. 31
3	九州国立博物館	1点	筑豊工業高校資料	常設展示	2. 4. 1～3. 3. 31
4	福岡県教育庁 筑豊教育事務所	7点	筑豊工業高校資料	展示のため	2. 4. 1～3. 3. 31

文書・典籍資料等の一時利用（資料見学等）一覧

番号	利用者(機関)	点数	利用資料名	利用目的	利用日
1	久留米大学	23点	糟屋郡史編纂関係資料・農業関係史料・中尾文書・伊東尾四郎文書	調査研究・市史編纂	2. 4. 6～2. 9. 10
2	筑紫女学園大学	102点	福岡日日新聞・九州日報（紙焼）	調査研究	2. 5. 24～3. 2. 17
3	久留米工業大学	2点	地図絵図史料	調査研究	2. 6. 11
4	個人	1点	藤井（甚）文書	調査研究	2. 6. 19
5	個人	15点	永江文書・戸川文書	調査研究	2. 6. 28
6	個人	21点	筑豊工業高校資料	調査研究	2. 6. 26
7	個人	4点	西川文書・御笠郡土木関係資料	調査研究	2. 7. 21
8	柳川古文書館	25点	永江文書・野田大塊文書	展示準備	2. 7. 22～2. 8. 15
9	新修宗像市史編さん委員会	38点	福岡日日新聞・福陵新報・西日本新聞・九州日報（紙焼）	市史編纂	2. 5. 28～3. 3. 20
10	個人	2点	花瀬村庄屋文書	調査研究	2. 8. 1
11	個人	4点	小川文書	調査研究	2. 9. 15
12	個人	1点	福岡藩関係史料	調査研究	2. 9. 27
13	國學院大學	8点	福岡藩関係史料	調査研究	2. 10. 11
14	福岡市博物館市史編さん室	419点	伊東尾四郎文書・絵葉書	市史編纂	2. 10. 15～2. 12. 9
15	福岡女子大学	21点	筑豊工業高校資料	調査研究	2. 10. 1
16	個人	7点	黒田家文書	調査研究	2. 11. 10
17	個人	21点	地図絵図史料・福岡県統計書	調査研究	2. 11. 20～2. 12. 16
18	個人	12点	糟屋郡史編纂関係資料	調査研究	2. 11. 26
19	九州産業大学	2点	福岡日日新聞・福陵新報（紙焼）	調査研究	2. 12. 3～3. 3. 31
20	個人	7点	永江文書・野田大塊文書	調査研究	2. 12. 3
21	九州大学記録資料館	1点	福岡日日新聞（紙焼）	調査研究	2. 12. 21～2. 12. 26
22	個人	2点	地図絵図史料	調査研究	3. 2. 2
23	大阪歴史博物館	2点	福岡藩関係史料	調査研究	3. 2. 10
24	個人	1点	永江文書	調査研究	3. 2. 21
25	秋月古文書講読会	32点	石野文書・山北村庄屋文書・鍵水（静）文書	調査研究	3. 3. 6～3. 3. 7
26	山口県立大学	8点	野田大塊文書	調査研究	3. 3. 9
27	個人	2点	山北村庄屋文書	調査研究	3. 3. 10
28	京都大学	13点	野田大塊文書・福岡日日新聞・永江文書	調査研究	3. 3. 16
29	立命館大学	61点	石野文書・戸川文書・野田大塊文書・永江文書・福岡日日新聞	調査研究	3. 3. 20
30	国文学研究資料館	27点	黒田家文書・花瀬村庄屋文書・中尾文書	調査研究	3. 3. 24

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（１）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
1	(株) ソナーメ ディア	2点	博多太宰府図屏風	番組「杖道」で放映
2	個人	4点	大宰府史跡出土木簡保 存処理作業状況	論文に掲載
3	個人	5点	貝元遺跡出土石製品 他	論文に掲載
4	国立歴史民俗博物 館	2点	西新町遺跡出土住居 他	企画展示「加耶ー古代東アジアを生き た、ある王国の歴史ー」で使用
5	(株) ベネッセ コーポレーション	2点	大宰府の防衛網 他	模試に掲載
6	個人	1点	漆紙文書	論文に掲載
7	(公財) 古都大宰 府保存協会	7点	大宰府史跡出土人形 他	展示解説等に掲載
8	加曽利貝塚博物館	1点	石町遺跡出土北久根式 土器	ホームページに掲載
9	(一財) 西日本文 化協会	1点	福岡藩郡方記録抜萃	『西日本文化』夏季号に掲載
10	小郡市教育委員会	2点	珍敷塚古墳壁画 他	特別展「歴史のなかの植物」で使用
11	行橋市教育委員会	1点	延永ヤヨミ園遺跡方形 周溝	『ゆくはし屋根のない博物館ガイドブッ ク』に掲載
12	(株) 雄山閣	2点	大宰府政庁跡航空写真 他	『季刊考古学152号』に掲載
13	(株) 図書館流通 センター	3点	江戸麻布御殿表絵図	『港区史』、『デジタル版 港区のあゆ み』に掲載
14	水城をかんがえる 会	7点	水城跡欠堤部と御笠川	『おおりの郷』に掲載
15	佐賀県立博物館	1点	薩摩塔（仁比山地蔵院 蔵）	特別展「THIS IS SAGA- 2つの海が世界 とつなぎ、佐賀をつくった」図録に掲載
16	宇美町教育委員会	1点	大野城跡航空写真	『広報宇美』7月号他に掲載
17	粕屋町立歴史資料 館	2点	大宰府政庁跡航空写真 他	企画展「阿恵官衙遺跡展」で使用
18	(株) ユニフォ トプレスインターナ ショナル	1点	大野城跡と基肄城跡航 空写真	「大学入学テスト日本史 完成編」に掲 載
19	読売新聞西部本社	1点	第二次調査状況（北九 州・白島）	6月24日付朝刊他に掲載
20	韓国国立加耶文化 研究所	6点	環状鏡板付轡出土状態	『加耶資料叢書ー日本出土加耶遺跡・遺 物資料編ー』に掲載
21	太宰府市教育委員 会	1点	十二ヶ月風俗絵巻	「太宰府の絵師調査事業パネル展」で使 用
22	鹿児島県歴史・美 術センター黎明館	15点	大野城跡航空写真	企画特別展「鹿児島の城跡」で使用

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（２）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
23	図書出版 海鳥社	1点	怡土城跡全景	『大宰府の防人たち』に掲載
24	(株) 集英社	2点	大野城跡航空写真 他	『学習まんが 日本の歴史（ポータブル版） 2巻』に掲載
25	太宰府市文化ふれあい館	5点	大宰府の文房具	「まるごと太宰府歴史展2020」で使用
26	RKB毎日放送	4点	福岡県の戦争遺跡第二次調査状況	番組内で使用
27	(株) はる制作室	1点	下原遺跡出土硯	『TJ MOOK 日本の古代史 発掘・研究最前線』に掲載
28	福津市教育委員会	1点	新原・奴山1号墳石室	「神宿る島」展で使用
29	柳川市教育委員会	4点	壺簪社日誌他	企画展「柳川の自由民権運動」で使用
30	水城をかんがえる会	1点	水城跡航空写真	『おおりの郷』に掲載
31	埼玉県立さきたま史跡の博物館	1点	桂川王塚古墳石室	企画展「盾持人埴輪の世界」で使用
32	教育出版(株)	1点	大宰府政庁復元模型	中学歴史指導者用デジタル教科書に掲載
33	九州国立博物館	5点	大宰府政庁周辺官衙跡不丁地区 他	映像「太宰府と大伴旅人」で使用
34	東武トップツアーズ(株)	3点	大宰府政庁と大野城跡航空写真 他	学習の旅「名城を訪ねる」のパンフレットに掲載
35	宇美町	34点	大野城跡航空写真 他	『宇美町誌』に掲載するため
36	(一社) 西日本文化協会	2点	興宗寺義士墓建設の契約書 他	『西日本文化』秋季号に掲載
37	個人	5点	黒田綱政加増宛行状写	『速水家系図翻刻』に掲載
38	(有) オフィス・イデオム	1点	大宰府政庁復元模型	『学習まんがDVD付きNEW日本の歴史』に掲載
39	(株) 学研プラス	1点	大宰府の防衛網	「共通テスト対策日本史実戦ユニット2 テキスト」に掲載
40	佐賀県立博物館	1点	朝日寺神子栄尊像	特別展「THS IS SAGA－2つの海が世界とつながり、佐賀をつくった」で使用
41	九州テレ・コミュニケーションズ(株)	2点	第4次調査SB001瓦積み基壇 他	番組「2755（つなゴーゴー）」で使用
42	北九州市立文学館	1点	香月村寿命唐戸通船景	企画展「没後60年火野葦平展」で使用
43	(株) 学研プラス	1点	大宰府政庁復元模型	『ニューコース参考書中学歴史改訂版』に掲載
44	九州テレ・コミュニケーションズ(株)	5点	大野城跡百間石垣他	番組「2755（つなゴーゴー）」で使用

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（3）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
45	個人	1点	大友義統感状「大和孫次郎あて」	柑子岳城の編年史に掲載
46	(株) 地域情報センター	1点	筑前三笠郡岩谷城図	月刊誌『ふくおか経済 12月号』に掲載
47	久山町教育委員会	1点	伝白山神社経塚出土遺物	首羅山遺跡登山道サイン（案内板）に掲載
48	(株) 第一学習社	1点	大宰府政庁復元模型	高等学校用副教材『新訂総合国語便覧』に掲載
49	小郡市郷土史会	1点	漆漣し布	雑誌『故郷の花』第46号に掲載
50	個人	1点	延永ヤヨミ園遺跡出土木簡	雑誌『木簡学研究』第42号に掲載
51	柳川市教育委員会	16点	四月十八日会議案 他	動画「柳川の自由民権運動」で使用
52	太宰府市教育委員会	1点	博多太宰府図屏風（太宰府図）	普及広報誌『宰府画報』第3号に掲載
53	新修宗像市史編集委員会	1点	『延喜式』（神名帳にみえる大和国宗像神社）	宗像市ホームページに掲載
54	佐土原SHIGEKI塾	1点	木造古月禅材和尚像	子供向け郷土資料本『佐土原むかし物語』に掲載
55	福岡リーセントホテル	5点	福博名所博多駅 他	歴史教養講座で使用
56	(株) 清水書院	1点	大宰府等鳥瞰図	高等学校検定教科書『高等学校日本史探求』に掲載
57	(有) 海鳥社	3点	大野城跡百間石垣 他	『九州考古学の現在』に掲載
58	(一社) 西日本文化協会	4点	光雲神社御蔵書目 他	『西日本文化』新年号に掲載
59	(株) 宝島社	1点	孟蘭盆一品縁起	『名僧のことばでわかる仏教入門』に掲載
60	宮若市教育委員会	1点	珍敷塚古墳奥壁	インターネット上で公開する映像に使用
61	神埼市教育委員会	3点	大宰府政庁復元模型	『神埼市史』第2巻に掲載
62	東京書籍（株）	2点	王塚古墳石室玄門 他	中学校教科書『令和3年度新しい社会』（デジタル版）に掲載
63	みやこ町歴史民俗博物館	2点	徳永川ノ上遺跡出土唐墨	「博物館だより」第169号に掲載
64	木簡学会	45点	『木簡研究』掲載の写真	『木簡研究』をインターネット上で公開
65	木簡学会	5点	大宰府政庁跡出土木簡	『木簡研究』第42号に掲載
66	奈良文化財研究所	1点	観世音寺出土軒丸瓦	『奈文研紀要』他に掲載
67	春日市教育委員会	2点	原遺跡全景 他	『春日市史』に掲載
68	北九州市	1点	香月村寿命唐戸通舟景	教材「グラ・マップ北九州2021」に掲載

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（４）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
69	みやま市教育委員会	11点	みやま市内最古の弥生土器 他	『みやま市史』普及版に掲載
70	個人	4点	荷札木簡	論文に掲載
71	九州テレ・コミュニケーションズ（株）	1点	大宰府政庁西脇殿出土鬼瓦	番組「2755（つなゴーゴー）」で使用
72	九州国立博物館	5点	大野城跡太宰府口城門 他	映像「大宰府と大伴旅人」で使用
73	行橋市教育委員会	17点	津留遺跡出土鏡片 他	企画展「一般国道10号バイパス開通30周年記念ゆくはしの地下を掘る」で使用
74	（株）ユニフォトプレスインターナショナル	1点	大野城跡太宰府口城門出土木柱CTスキャン断面画像	「共通テスト本番レベル模試日本史」に掲載
75	飯塚市教育委員会	2点	目尾炭坑 他	『史跡筑豊炭田遺跡群保存活用計画－目尾炭坑跡編－』に掲載
76	みやこ町歴史民俗博物館	15点	皆見大塚古墳	ホームページ「みやこ町デジタルミュージアム」に掲載
77	（株）山川出版社	1点	大宰府跡出土木簡「大隅郡」	『高等学校地理歴史科日本史探求②』に掲載
78	横浜市歴史博物館	2点	大宰府跡出土木簡「奄美島」 他	「横浜市歴史博物館NEWS50号」に掲載
79	個人	1点	麻布御屋敷絵図	論文に掲載
80	個人	一式	勝浦峯ノ畑古墳出土1～8号鏡	論文に掲載
81	（公財）古都大宰府保存協会	7点	大宰府史跡の調査開始 他	『都府楼』第52号に掲載
82	神崎市教育委員会	1点	明治二十八、九年神埼郡境野村境原浜ノ浦樋管架換紛議一件	『神崎市史』第3巻に掲載
83	（株）TVQ九州放送	1点	大宰府政庁出土鬼瓦	番組「きらり九州」で使用
84	九州国立博物館	3点	大宰府牒 承平七年十月四日 他	『九州国立博物館アジア文化交流センター研究論集 第2集』に掲載
85	個人	2点	筑前国分寺出土土製仏像頭部 他	論文に掲載
86	太宰府市教育委員会	3点	大宰府政庁跡出土鎮壇具 他	リーフレット大宰府史跡シリーズ「大宰府跡」に掲載
87	直方市教育委員会	6点	坑内救護訓練（死傷者の運搬） 他	整備基本計画報告書『筑豊炭田遺跡群旧筑豊石炭鉱業組合直方会議所及び救護練習所模擬坑道』に掲載
88	サイバーネット・コミュニケーションズ（株）	2点	大野城跡と水城跡 他	中学歴史資料集『たどってまとめる新歴史』に掲載

写真資料等の貸出・掲載許可一覧（５）

番号	貸出先	点数	貸出・掲載資料名	貸出・掲載目的
89	大野城心のふるさと館	25点	宗原遺跡出土槍先形尖頭器 他	特別展「教科書でみる考古名品」で使用
90	西新1丁目3区自治会	1点	筑前名所 草香江 明治17年 上野就賢作	小冊子『西新町の足跡』に掲載
91	(一社)西日本文化協会	3点	天台寺跡出土瓦 他	『西日本文化』春季号に掲載
92	粕屋町教育委員会	2点	水城跡航空写真 他	『小中学生のための粕屋町の歴史[令和版]』に掲載
93	宗像市	1点	上八字辻の古墳	『新修宗像市史』に掲載
94	太宰府市教育委員会	1点	大宰府学校院跡出土文様埴	『だざいふの史跡』に掲載
95	太宰府市教育委員会	1点	大宰府政庁跡出土鬼瓦	大宰府史跡100年記念フォーラムに関する印刷物に掲載
96	(株)新泉社	3点	伝白山神社経塚出土遺物 他	『首羅山遺跡』に掲載
97	講談社	1点	若八幡宮古墳出土三角縁神獣鏡	『アースダイバー 神社編』に掲載
98	個人	1点	塚崎東畑遺跡出土丹塗磨研土器	論文に掲載
99	個人	2点	大宰府政庁周辺官衙跡出土土馬 他	『都府楼 52号』に掲載
100	福岡リーセントホテル	5点	大宰府政庁跡と坂本八幡宮 他	歴史教養講座で使用
101	(株)サンマーク ナッセ編集部	1点	絵葉書 福岡県庁正面全景	JA福岡市「JA通信」vol.24に掲載
102	実教出版(株)	1点	東小田峰遺跡10号甕棺墓	高等学校検定教科書『日本史探求』に掲載
103	福岡市博物館	1点	大宰府政庁復元模型	「役所とハンコ」展で使用
104	(株)ディラナダチ	1点	大野城跡百間石垣	雑誌『歴史人』に掲載
105	(公財)元興寺文化財研究所	2点	勝浦峯ノ畑古墳出土画文帯神獣鏡	『元興寺文化財研究所研究報告2020』に掲載
106	個人	1点	高崎2号墳出土環頭	論文に掲載
107	兵庫県立考古博物館	1点	伯玄社遺跡出土磨製石鏃	特別展「弥生時代って知ってる？ー2,000年前のひょうごー」で使用
108	(一財)東京大学出版会	1点	竹原古墳石室壁画	『日本美術の歴史 増補版』に掲載
109	個人	3点	観世音寺出土丸瓦	論文に掲載
110	柳川市教育委員会	1点	石橋家活業三要訣	柳川の歴史5『柳河藩の政治と社会』に掲載

（４）学習支援・博学連携

◎学習支援活動

○来館学習

２年度も、小学6年生や中学1年生が歴史を学習する時期に合わせて、４～７月に企画展「きゅうおにとタイムトラベル」を開催した。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、この時期に来館した学校はなく、この展示を活用した来館学習は実施できなかった。

２年度に来館学習では、受け入れ人数を制限し、小グループに分かれて見学してもらうようにした。

第１展示室では、自由見学を中心とし、子どもたちが個々に「お気に入り」の資料を自由に見て回る活動を行った。子どもたちは、関心をもったものについて質問し、多くの展示資料の中からそれぞれに「お気に入り」を見つけ、それがどんなものなのかメモをとっていた。

第４展示室では、遺構展示してあるものが使われていた当時の人々の様子を思い浮かべられるよう解説をした。また、表面の触り心地や重さを感じることができるよう、実物の土器や石器のハンズオン体験や銅剣・銅矛のレプリカを持ち上げる体験を行った。さらに中庭回廊では、遺物を科学を駆使して分析し、丁寧に修復、整理し、記録する作業についての説明を行った。子どもたちは、興味深そうに見聞きしていた。

２年度は、修学旅行で来館した学校が例年よりも多かった。学校団体の来館者総数は、以下のとおりである。



小学校来館学習

期 日	学 校 名 及 び 学 年	来館者数
６月23日（火）	朝倉市立甘木小学校（６年生）	中止
７月14日（火）	小竹町立小竹西小学校（６年生）	15名
７月30日（木）	久留米大学	11名
９月３日（金）	倉敷市立北中学校（２年生）	中止
10月23日（金）	行橋市立稗田小学校（６年生）	27名
10月24日（土）	筑紫女学園大学	33名
11月19日（木）	築上町立葛城小学校（６年生）	9名
11月20日（金）	須磨学園中学校（１年生）	168名
12月17日（木）	苅田町立白川小学校（６年生）	14名
１月16日（土）	久留米大学	中止
２月18日（木）	小郡市立三国小学校（６年生）第１グループ	中止
２月25日（木）	小郡市立三国小学校（６年生）第２グループ	中止
来館学習総数		277名

○スクールミュージアム事業

スクールミュージアム事業は、福岡県内の公立小学校、中学校、高等学校、義務教育学校、中等教育学校、特別支援学校を対象として、一般財団法人福岡県教職員互助会、福岡県立美術館、福岡県青少年科学館及び当館が合同で実施しているものである。四者で児童・生徒の鑑賞活動や科学体験活動、歴史・考古資料見学・考古学体験活動にかかる合同事業を行うことにより、情操教育、美術教育、科学教育、歴史教育の活性化及び地域文化の振興発展に寄与することを目的としている。当館は27年度から参画している。

2年度は、小学校4校、中学校1校、特別支援学校1校が来館予定だったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響ですべて中止になった。来館予定だった学校は、以下のとおりである。

期 日	学 校 名 及 び 学 年	来館者数
6月5日（金）	筑紫野市立二日市北小学校（6年生）	中止
6月12日（金）	福岡県立柳河特別支援学校 （小5・6年生，中1～3年生）	中止
6月18日（木）	広川町立上広川小学校（6年生）	中止
6月19日（金）	朝倉市立立石小学校（6年生）	中止
6月24日（水）	福岡市立柏原中学校（1～3年生）	中止
9月11日（金）	福岡市立東住吉小学校（6年生）	中止

○職場体験

例年、職場体験では、館内の見学、土器の展開、拓本、図書整理作業など、博物館ならではの仕事のほか、警備、受付、清掃など、いろいろな業務を体験してもらっている。このことをとおして、多くの人たちの様々な仕事によって館全体の事業が成り立っていることや、共に働く同僚の大切さなどに気づかせ、日常生活における自分の生き方や在り方を考えさせることを目指している。

2年度は、中学校2校からの依頼があったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、2校とも中止となった。

○高校生インターンシップ

例年、高校生インターンシップは、高校教育課より委託を受けて行う「福岡県教育庁等高校生インターンシップ」を2回、また、県立三井高等学校が独自で実施するインターンシップを1回実施している。インターンシップでは、中学生職場体験よりも内容を充実させ、歴史系博物館ならではのプログラムを提供している。職業体験の機会を提供し、勤労観・職業観を養い、職業選択能力の伸長への支援を目指している。2年度は未実施だった。

○出前講座

2年度は、春日市、筑紫野市の中学校2校から依頼を受けていたが、1校が中止となり、1校のみの実施であった。実施した中学校からは、事前にキャリア教育の一環として「文化財発掘技師の仕事」というテーマで話をしたいという依頼を受けていた。当日は、文化財発掘技師が学校に行き、感染症対策により別室からのリモートでの出前講座を行った。講座を終え生徒からは、「文化財発掘技師の仕事がどんなものか分かってよかった」「文化財発掘技師という仕事を知り、興味をもった」などの声が聞かれた。



中学校出前講座

○教員のための博物館の日 in 九歴

期日：令和2年8月4日（火）

内容：学校による当館の活用促進を図るために、まずは学校の先生方に「博物館の教育資源」である「ひと・もの・こと」を知ってもらい、博物館を楽しんでもらおうと企画したものである。2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止した。予定していた内容は、以下のとおりである。

時 間	内 容	場 所
9:30～ 9:45	受 付	文化情報広場
9:45～10:00	開会行事（オリエンテーション）	研修室
10:00～10:40	館内見学（中庭、バックヤードを含む）	第4展示室・新収蔵庫等
10:40～10:50	休憩	
10:50～11:20	福岡県の戦争遺跡ギャラリートーク	第2展示室
11:20～12:00	①ハンズオン体験 ②展開体験	研修室
12:00～12:30	閉会行事（交流会・アンケート含む）	研修室
13:30～15:00	博物館を活用した授業について相談会	研修室ほか

○博物館とともに地域を学ぶ「大宰府史跡フィールドワーク」

期日：令和2年10月31日（金）

内容：2年度は、特別史跡大宰府跡が、わが国最初の史跡指定となって100周年にあたる。この機会に、改めて先生方に大宰府の歴史や発掘調査について知っていただき、身近な史跡を通して地域の歴史や文化財を学ぶ授業に役立ててほしいと考え、元年度に続き企画したものである。当日は、県内各地の中学校、高等学校の先生方7名に参加していただき、古代に「府の大寺」ともいわれた観世音寺を、学芸員の案内で見学した。当日の日程は、以下のとおりである。

時 間	内 容
9:45～10:00	受付（観世音寺宝蔵入り口横）
10:00～11:00	境内解説
11:00～11:10	休憩
11:10～12:10	宝蔵見学・解説
12:10～12:30	まとめ

○福岡の至宝を知る in 九州歴史資料館 ～特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」から～

期日：令和2年11月20日（金）

内容：地域社会に対する誇りと愛情をもった児童・生徒を育成するためには、地域の教材をいかした社会科学習が大切である。しかし、地域教材の開発に困難さを感じている先生方も少なくない。そこで、そんな悩みを解消するために、特別展で取り上げる地域の小・中学校の先生方を対象として、28年度から開催している事業である。2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止した。予定していた内容は、以下のとおりである。

時 間	内 容	場 所
13:25～13:40	受付	文化情報広場
13:40～13:50	開会行事（オリエンテーション）	研修室
13:50～14:30	講話「福岡の至宝に見る信仰と美」	研修室
14:35～15:15	特別展観覧（展示解説）・地域の歴史資料の解説	第1・2展示室
15:15～15:30	休憩	
15:30～16:15	地域の歴史資料を使った教材の紹介	研修室
16:15～16:30	閉会行事（アンケート記入）	研修室

（５）ボランティア

◎九歴ボランティア

移転開館時から設置している当館のボランティア（通称「九歴ボランティア」）は、３年を一期として活動している。２年度は、第４期目の２年目である。３０年度に新規ボランティアを募集して２年度は、３４名で活動を行った。しかしながらコロナ禍のため、元年度末からボランティア活動自体が休止しており、ほとんど活動ができない状態であった。そのため今期の任期を一年延長し、４年間（令和４年３月まで）とした。

○定例研修会

九歴ボランティアとしての知見・識見を高めること、ボランティア間の交流を図ることを目的として、毎月第二土曜日の午前中（１０：００～）に定例研修会を設定している。２年度は高齢者が多いという実情を配慮して２回のみの実施とした。

実践研修の内容は以下のとおりである。

回 数	開催日	研修の内容
第１回	９月１２日	災害・事故発生時の対応、今後の古代体験へのヒアリング
第２回	３月１３日	屋外展示の解説 ３年度の計画 自主活動（綿栽培）について

○バス研修会・交流会

２年度は、１０月１日にボランティアバス研修を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から中止とした。

◎ボランティア活動

○古代体験・バックヤードツアー

土日・祝日に実施していた古代体験は、感染防止の観点により、２年度は実施を中止した。

○ボランティアイベントの開催

２５年度末から開始した、九歴ボランティアが主体的に企画・実施する事業である。２７年度からは、福岡県教育文化奨学財団の助成事業を受け、その一部を「博物館こども古代体験推進事業」として実施している。歴史系博物館実施のイベントとして「昔の遊び」「伝統的な技術」にこだわり、会場に関連する出土資料のパネルを設置したり、歴史的背景がわかる絵や文章を載せた資料を配布したりするなど、歴史・文化の普及に力を注いだ。

２年度「ボランティアイベント」の計画は、以下のとおりであったが中止となっている。

- ・４月２６日（日） 石斧できこり
- ・７月２８日（火） 平日古代体験１日目
- ・８月４日（火） 平日古代体験２日目
- ・１１月１２・１９日（木） 大人組紐講座
- ・１月１７日（日） 縄文ポシェット作り
- ・２月２０日（土） My おひな様とMy組紐

（６）普及・活用事業

◎講座・講演会

○名誉館長講座

内容：西谷正名誉館長を講師とする、主に第４土曜日に実施する全12回の連続講座である。通年のテーマは「邪馬台国への道」である。定員160名に対し200名の受講申し込みを受けたが、年度当初より新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で中止となる回が続いた上、感染防止対策のため1回当たりの受講者人数を削減することとなった。その結果、受講者をAグループ・Bグループに２分割した上で、同一内容の講座を２回（２ヶ月）実施し、さらに未完了の回については３年度に繰り越すことで対応した。また座席指定制を導入し、皆勤賞の発行は休止している。



名誉館長講座

開催予定変更前および変更後の開催日、演題、受講者数は次のとおりである。

（変更前）

回数	開催日	演題
第１回	４月25日	帯方郡 - 魏志倭人伝の冒頭部分
第２回	５月23日	韓の国々 - 魏志韓伝の世界
第３回	６月27日	狗邪韓国 - 魏志韓伝の弁辰狗邪国
第４回	７月25日	対馬国
第５回	８月22日	一支国
第６回	９月26日	末盧国
第７回	10月24日	伊都国・斯馬国
第８回	11月28日	奴国
第９回	12月26日	不弥国
第10回	１月23日	投馬国
第11回	２月27日	邪馬台国「九州」説
第12回	３月27日	邪馬台国・狗奴国 - 近畿説

（変更後）

回数	開催日	演題	受講者数
第１回	８月22日	帯方郡 - 魏志倭人伝の冒頭部分（Aグループ）	87名
第２回	９月26日	帯方郡 - 魏志倭人伝の冒頭部分（Bグループ）	99名
第３回	10月24日	韓の国々 - 魏志韓伝の世界（Aグループ）	76名
第４回	11月28日	韓の国々 - 魏志韓伝の世界（Bグループ）	96名
第５回	12月26日	狗邪韓国 - 魏志韓伝の弁辰狗邪国（Aグループ）	82名
第６回	３月27日	狗邪韓国 - 魏志韓伝の弁辰狗邪国（Bグループ）	80名
受講者数総計			520名

○九歴講座

内容：主に毎月第2土曜日に当館や3分館の学芸員の他、市町村教育委員会等の外部講師を招いて実施する講座である。2年度も全12回を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて年度当初から中止が相次ぎ、最終的に予定を大幅に組み替えた上で以下の通り実施し、延べ471名の方が受講した。なお感染拡大防止のため、定員を80名（および当館ボランティア）とした上で、事前予約制・座席指定制を導入している。

開演日、演題、講師、受講者数は次のとおりである。



九歴講座

回	開催日	演題	講師（所属）	受講者数
第1回	4月11日	八幡古表神社の細男舞・神相撲	永田裕久 （吉富町教育委員会）	中止
第2回	5月9日	甘木絞りと甘木緋	國生知子 （甘木歴史資料館）	中止
第3回	6月13日	玉と古代の豪族	吉田東明（当館）	中止
第4回	7月11日 →9月12日	福岡県に遺る近代戦争の痕跡	池田 拓 （宗像市文化財課）	74名
第5回	8月8日	福岡県の郷土部隊	渡部邦昭（当館）	64名
第6回	9月12日 →11月14日	芦屋釜の歴史と名品	新郷英弘（芦屋釜の里）	65名
第7回	10月10日	北部九州の経筒文化	森井啓次（当館）	中止
第8回	11月14日 →10月10日	大宰府ゆかりの古文書	酒井芳司（当館）	71名
第9回	12月12日	立花宗茂の柳川再封	白石直樹（柳川古文書館）	82名
第10回	1月9日	「庚寅銘大刀」と古墳時代の元岡・桑原遺跡群	大塚紀宜 （福岡市史跡整備活用課）	35名
第11回	2月13日	相島における朝鮮通信使客館跡～発掘調査から分かったこと～	西田大輔 （新宮町教育委員会）	中止
第12回	3月13日	大宰府政庁周辺官衙跡の最新調査成果	小田和利（当館）	80名
受講者数総計				471名

○九歴ゼミ

内容：第2・第4水曜日の夜18：30～20：00（18：00受付開始）まで実施する、当館の学芸員を講師とした連続講座である。通常は7～9月、10～12月、1～3月の年間3期、各期6回ずつ開講だが、2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う臨時休館に伴い、第1期は当初より8～9月の4回開催とした。さらに第3期も新型コロナウイルス感染拡大に伴うイベント休止により、日程を変更し、令和3年5月まで開催時期を拡大して全6回を実施した。例年も事前予約制だが、2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、定員を50名とした上で、座席指定制を導入している。なお2年度は応募者全員を受講生とした。

開催期間、演題、講師、各期（6回）延べ受講者数は次のとおりである。

期	開催期間	演題	講師	延べ受講者数
第1期	8月13日～9月24日	大宰府・太宰府天満宮史料を読む ～菅原道真編～	松川博一	123名
第2期	10月15日～12月24日	大宰府・太宰府天満宮史料を読む ～大宰府の歴史編～	酒井芳司	240名
第3期	1月14日～3月25日 →5月6日	中国陶磁史概説	遠藤啓介	232名
受講者延べ数総計				595名

○特別展記念等講演会

内容：特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」の開催を記念して講演会を実施した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、定員を80名（および当館ボランティア）とした上で、事前予約制・座席指定制を導入している。

開催日、演題、講師、受講者数は以下のとおりである。

開催日	演題	講師	受講者数
10月31日（土）	特別展記念講演会1 「茶陶から見た高取・上野焼」	伊藤嘉章 （町田市立博物館館長・愛知県 陶磁美術館総長） 遠藤啓介（当館）	66名
11月22日（日）	特別展記念講演会2 「新出・藤原定家本源氏物語『若 紫』について」	藤本孝一 （龍谷大学客員教授・元文化庁 主任文化財調査官） 酒井芳司（当館）	86名
受講者数総計			152名

○タペのギャラリートーク

内容：当館では、他の観覧者の鑑賞の妨げにならないよう、第1展示室での展示解説を差し控え、その代わりに解説シートを無料で配布している。24年度からの新規事業として、当館の学芸員が、展示を担当した展示物について解説を行うギャラリートークを実施した。28年度までは、一旦閉館したのちに、18：30より再度開館、ギャラリートークは19：00より20：00までとしていたが、より参加者の層と利便性を再考し、29年度よりプレミアムフライデー（毎月最終金曜日）の実施とし、開催時間も閉館直後の16：30から17：30とした。



ギャラリートーク

本年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、定員を8名（および当館ボランティア）とし、開催時間は16：30～17：00に短縮、事前予約制とした。例年に比べ、1回当たりの人数が減るため、代替措置としてすべてのギャラリートークを2回ずつの開催とし、多くの方に受講いただけるようにした。そのため、回数は例年より大幅に増加し、全16回を予定した。ただし第1回は参加者

不在、第2回は悪天候、第11回と12回は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止された。

開催日、内容、講師、受講者数は次のとおりである。

なお、下記の他に特別展開関連イベントに合わせて、ギャラリートークが開催されたこともある。

	開催日	内容	講師	受講者数
第1回	7月3日	企画展「即位の大礼と福岡県①」	渡部邦昭	中止
第2回	7月10日	企画展「即位の大礼と福岡県②」	渡部邦昭	中止
第3回	7月31日	企画展「出土品から見た『福岡県の戦争遺跡』①」	小川泰樹	8名
第4回	8月7日	企画展「出土品から見た『福岡県の戦争遺跡』②」	小川泰樹	7名
第5回	10月16日	企画展「福岡県の古代豪族①」	吉田東明	7名
第6回	10月23日	特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」Part. 1①	遠藤啓介	6名
第7回	10月30日	特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」Part. 1②	遠藤啓介	7名
第8回	11月13日	企画展「福岡県の古代豪族②」	吉田東明	10名
第9回	11月20日	特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」Part. 2①	松川博一	7名
第10回	11月27日	特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」Part. 2②	松川博一	10名
第11回	1月29日	企画展「朝鮮通信使と福岡①」	酒井芳司	中止
第12回	2月5日	企画展「朝鮮通信使と福岡②」	酒井芳司	中止
第13回	3月12日	常設展「彫刻部門」①	井形 進	8名
第14回	3月19日	常設展「絵画部門」①	日野綾子	4名
第15回	3月23日	常設展「彫刻部門」②	井形 進	5名
第16回	3月26日	常設展「絵画部門」②	日野綾子	2名
		参加者数総計		81名

○出前講座

内容：県政の課題など、県民の希望のテーマについて県職員がわかりやすく説明する「ふくおか県政出前講座」など、県民の要請を受けて計24回の講座に赴いた。

2年度の実績は以下のとおりである。

	開催日	依頼者	タイトル	会場	講師	参加者数
1	7月5日（日）	太宰府市文化ふれあい館	近代太宰府の鉄道史～幻の鉄道計画を中心に～	太宰府市文化ふれあい館	渡部邦昭	36名
2	7月11日（土）	求菩提資料館	豊前の中近世城館	求菩提資料館	岡寺 良	30名
3	8月30日（日）	九州山岳霊場遺跡研究会	求菩提山と豊前の山岳霊場遺跡	求菩提資料館・豊前市市民会館	岡寺 良 井形 進	138名

4	9月3日(木)	豊津女性学級	大宰府と古代のみやこ町	みやこ町公民館	小田和利	11名
5	9月19日(土)	北九州市の文化財を守る会	北九州の鉄道史について～鹿児島本線から未成線まで～	北九州市立第百三十銀行	渡部邦昭	30名
6	10月8日(木)	北九州シニアネットワークアカデミー	大宰府と天神信仰	北九州市立年長研修大学校周望学舎	松川博一	30名
7	10月11日(日)	宗像大社神宝館ほか	謎解き！ムナカタ	福津市カメラアホール	吉田東明	80名
8	10月17日(土)	八女市	ヤマト王権と筑紫君	岩戸山歴史文化交流館	松川博一	150名
9	10月17日(土)	公立学校共済組合	祈りの山 宝満山	福岡リーセントホテル	酒井芳司	32名
10	10月24日(土)	アクロス福岡	特別展関連	アクロス福岡	遠藤啓介	63名
11	11月14日(土)	福津市教育委員会	福津市歴史講座	福津市カメラアホール	吉村靖徳	30名
12	11月27日(金)	春日市シニアクラブ連合会	大宰府史跡等について	春日市ふれあい文化センター	小田和利	54名
13	11月28日(土)	古賀市教育委員会	船原古墳とその被葬者蔵	古賀リーパスプラザ	吉村靖徳	80名
14	12月2日(水)	朝倉女性学級	大宰府史跡等について	フレアス甘木	小田和利	43名
15	12月5日(土)	公立学校共済組合	福岡市東部の鉄道史～130年の驀進～	福岡リーセントホテル	渡部邦昭	26名
16	12月6日(月)	首羅山ツキイチ登山会	首羅山現地解説	首羅山	井形 進	70名
16	12月6日(月)	北部九州中近世城郭研究会・朝倉市秋月博物館	福岡藩関連の陣屋・御殿(第7回九州城郭研究大会)	朝倉地域生涯学習センター	岡寺 良	50名
17	12月14日(月)	日本応用地質学会	水城跡の築堤技法について	太宰府市文化ふれあい館・水城跡	小田和利	14名
18	2月20日(金)	歴史講座『ビギナーズ歴史倶楽部』	郷土が生んだ近代洋画家	大刀洗町中央公民館	日野綾子	25名
19	3月5日(金)	福津市教育委員会	整備された古墳とその活用	福津市カメラアステージ	吉村靖徳	40名
20	3月6日(土)	伊都国歴史博物館	九州・福岡の鉄道史―筑肥線を中心に―	伊都国歴史博物館	渡部邦昭	50名
21	3月13日(土)	公立学校共済組合	令和の里、太宰府と万葉の世	福岡リーセントホテル	松川博一	19名
22	3月17日(水)	博多まちづくり推進協議会	博多駅を中心とした福岡・博多の鉄道の歴史	博多駅	渡部邦昭	17名
23	3月20日(土)	公立学校共済組合	九州における鉄道の発展と近代福岡	福岡リーセントホテル	渡部邦昭	23名
24	3月23日(火)	大宰府史跡解説員自主研修	大宰府史跡現地案内	大宰府史跡	小田和利	25名

◎一般来館者対応事業

当館の施設や事業内容を知っていただき、文化財やその保護・保存の重要性をより深く理解していただくために、来館者の展示資料に関する質問や、館外からのレファレンスへの対応のほか、来館者対応事業として館独自のサービスを職員が行っている。

○来館者への施設・展示解説

来館者により深く当館を理解していただくために、事前申込みのあった団体に対して、職員による中庭回廊や施設の解説を行っている。また、当日申込みの団体に対しても可能な限り対応している。解説の依頼はシニアクラブや生涯学習関係団体を中心ではあるが、学童保育など古代体験と合わせて当館を利用したいという団体も利用されている。

2年度は18団体約850名の来館が中止になり、16団体延べ414名の方々に案内を行った。

○収蔵品オンデマンド「飛び出すむかしの宝物」

本事業に関しては、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を注視し、実資料を取り扱う事に対する影響を考慮しながら実施について検討していたが、来館者と学芸員との対面でのやりとりになる事や、実際に触れる出土品を逐一消毒する事が不可能である点などを鑑み、2年度は休止とした。3年度以降についても状況に応じて実施について判断する。

◎体験教室・イベント

当館に親しんでいただき、またあらゆる世代に歴史や文化財を身近に感じていただくことを目的として、各種の体験教室やイベントを開催している。小学生などを対象とした体験教室を中心に、大人にも楽しんでもらえるように他機関や団体との連携イベントのコンサートなどを行う予定だったが、2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため多くのイベントが中止になったが秋から冬の間については、人数制限と感染対策を行って可能な範囲で実施した。

○アクロスミュージアムコンサート

期日：令和2年11月21日（日）13：30～15：30

内容：アクロス福岡との共催で実施している事業で、例年特別展開催記念イベントとしてしている。博物館でプロのアーティストによる本物の音楽に触れる機会を作ることで、当館に親しんでいただくとともに、特別展を観覧いただき、本県の歴史や文化への理解の深化と文化財保護思想の普及に資することを目的としている。

特別展のタイトルである「信仰と美」に合わせて、美しい旋律の楽曲であるS. ラフマニノフの「ヴォカリーズ」や、A. ピアソラの「オブリヴィオン」、G. カサドの「親愛なる言葉」などを、田中美江（ピアノ）、市寛也（チェロ）による二重奏を奏でていただいた。当日の客席は椅子の間隔を空けて配置し、通常の半分の50席にした。2回の公演の間に椅子を消毒するなどの感染対策を行った。参加者は立ち見を含めて179名であった。



アクロスミュージアムコンサート

時 間	プログラム
13：30～14：00	アクロスミュージアムコンサート 第1部
15：00～15：30	アクロスミュージアムコンサート 第2部

【中止イベント】（新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響による）

○桜コンサート

主催：桜コンサート実行委員会

共催：九州歴史資料館・三国中校区なかよし地域ネット人権のまちづくり推進連絡会

内容：地域のまちづくり協議会が共同で立ち上げた実行委員会が開催するもので、地域の個人や団体の参加型のコンサートである。器楽だけでなく発声を伴う演者も多いので開催を断念した。

○小郡高等学校琴部演奏会茶道部茶会

主催：福岡県立小郡高等学校琴部茶道部

共催：九州歴史資料館

内容：当館の近隣に所在する福岡県立小郡高等学校の琴部は、外部講師を招いて本格的な活動をされている。当館の移転開館記念セレモニーやイベントでの演奏がご縁で、27年度から卒業演奏会を当館で開催しており、30年度からは茶道部の茶会も加わり、午前と午後に分けて開催している。2年度は開催に関する連絡がなかった。

○なるほど！！こども歴史教室

主催：九州歴史資料館

内容：一般来館者のほか、小学生などの児童・生徒にも楽しくわかりやすい博物館を目標に展示、普及活動を行っている。この普及事業の一環として行う本事業は、夏休み中の小学生に歴史や文化財に対する知的好奇心をかきたて、それに応えるものとして行うものである。例年夏休みに実施するもので、2年度は授業時間確保のため夏休みが短縮されたこともあり、開催を中止した。

○九州歴史資料館特別展記念茶会

主催：小郡市文化協会裏千家

共催：九州歴史資料館

内容：25年度から特別展開催期間中に開催しているもので、茶会参加者は特別展のギャラリートークなどほかのイベントを同時に行って相乗効果を上げるようにしている。飲食を伴うイベントであるため中止となった。

○あすみマルシェ

主催：西鉄あすみパビリオン

共催：九州歴史資料館

内容：西鉄あすみパビリオンが当館に隣接するあすみ地区の地域イベントとして開催するもので、あすみパビリオンが古代体験チケットを発行するなどしてイベント来場者の館利用を促進し、相乗効果を図るものである。2年度は春秋ともに開催の連絡がなかった。

○博物館子ども古代体験推進事業「古代体験まつり」

共催：九州歴史資料館

内容：過去にボランティアバス研修で訪れた県内の3つの博物館・資料館や関係の深い機関が行っている古代体験を招いて当館で一日で体験できるイベントである。ボランティアによる古代体験の運営を中止しているので本イベントも中止した。

○文化財めぐり

主催：九州歴史資料館

内容：特別展「福岡の至宝にみる信仰と美」の関連イベントとして企画したが、中止となった。

○いつでもまち旅「バックヤードツアー in 九州歴史資料館」

主催：久留米まち旅博覧会事務局

共催：九州歴史資料館

内容：「いつでもまち旅」は、久留米まち旅博覧会事務局主催の事業で、地元で暮らす人々が普段から慣れ親しんだ地域の宝物で、自らが訪れる人をもてなす手作りの旅プランをコンセプトに行っている。当館は26年度から「いつでもまち旅」に参画しており、一般の来館者が立ち入ることのできない博物館の裏側を学芸員が案内するバックヤードツアーと本物の瓦を用いた拓本のブックカバーの作成を行っている。参加人数は23名であった。



バックヤードツアーの様子

◎文化財デジタル体験コンテンツ導入事業

○館内360° バーチャル体験（リモート映像コンテンツ）制作

本事業は、コロナ禍における「新しい生活様式」への対応が求められる中、自宅や遠隔地で来館しにくい学校等で、当館の利用をウェブ上で疑似体験していただき、博物館や文化財に対する興味や関心を高めてもらうことを目的に行った。



館内360° バーチャル体験 トップページ

制作にあたっては、バーチャル体験の利用者に当館や文化財の魅力ができるだけ伝わるよう、

「常設展示」「特別展示」「バックヤード」「館内・館外」の4つのコースを開設することとした。

「特別展示」コースでは、2年度に開催した特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」の出品作品の中から14点を厳選して紹介し、福岡ゆかりの至宝、名品に触れてもらえるようにした。また、「バックヤード」コースでは、普段は入ることのできないバックヤードの様子を見られるようにし、それぞれの場所でどのような作業をしているのかが分かるように解説を表示させるようにした。

○ホームページ再構築

文化財デジタル体験コンテンツの導入に合わせて、これを統括するホームページの再構築を行った。再構築にあたっては、ホームページの閲覧者が知りたい情報にすぐにたどり着けるように、また当館が知らせたい情報が分かりやすく見られるように、トップページのデザインを変更したり、それぞれのページの再編を行ったりした。たくさんの情報が詰め込まれていた旧サイトのトップページに比べ、新サイトのトップページは、横幅が広くなり、リンクがたくさん配置され、見やすくスッキリとしたデザインとなった。今回の再構築で導入した、「館内360° バーチャル体験」と「文化財3D画像」の二つのコンテンツは、トップページの目に付きやすい場所にバナーを設置し、それぞれのページへ行きやすいようにした。



新サイトのトップページ

作業効率の面から見てみると、ホームページがCMS化（注：Web制作に必要な専門的な知識

が無くても、WEBサイトやコンテンツを管理・更新できるシステムにすること）されたことで更新作業が容易にできるようになった。また、新たに当館独自のサーバーが設置されたことにより、更新がリアルタイムにできるようになった。新ホームページアドレスは「<https://kyureki.jp>」。

○科学の視点からみる文化財デジタルコンテンツ制作

当館では平成22年の移転開館を機に整備した、X線CTスキャナを皮切りに3Dプリンタや3Dスキャナの導入を進め、デジタル計測技術を活用した文化財の調査研究を推進している。これまでの調査研究により、1500点を超えるデータを蓄積してきた。

こうしたデータを活用し、文化財を平面だけでなく、立体的にかつ内部の観察を行えるようにして、その理解をより深めてもらうため、VRコンテンツおよびタブレット等で3Dデータを閲覧できるアプリケーションを制作した。内容は以下のとおりである。

- ・VRコンテンツ

- 船原古墳1号土坑（遺物埋納坑）、船原古墳石室、皆見大塚古墳石室、奪衣婆坐像（個人蔵）

- ・3Dデータアプリケーション

- 船原古墳1号土坑（遺物埋納坑）、船原古墳石室、皆見大塚古墳石室、奪衣婆坐像（個人蔵）
如来形坐像（個人蔵）

なお、3Dデータアプリケーションは、当館ホームページ上からアクセス可能である。



船原古墳1号土坑のVR画像



船原古墳石室のVR画像

○古代衣装等のデジタルコンテンツ制作

土日祝日の古代体験では古代衣装試着を行っているが、衣装の着付けをする際には利用者とボランティアが接近するため古代体験の中でも感染予防対策が最も難しいメニューである。そこで、デジタルで古代衣装試着ができるコンテンツを制作し、代替とするとともに館のアミューズメント性を高めた。ブライダル業界で実用化されているドレス試着用のインタラクティブサイネージを利用して、デジタル化した古代衣装を試着できるようにしたもので、縄文時代の貫頭衣・弥生時代の貫頭衣・古墳時代の胡服・古墳時代の巫女衣装・奈良時代の貴族の衣装・奈良時代の女官の衣装・平安時代の狩衣・平安時代の女房装束の計8種を選択できる。職員がいなくても体験でき、手をかざすだけで操作できるように非接触での運用することでコロナ禍のなかでも使用できるようにした。

なお、使用者の体格に合わせて画像の大きさも変化するが、拡大するよりも縮小した方が画像の精度が維持されるので、補正予算を利用して大人用の衣装を追加制作した。弥生時代の貫頭衣4着、古墳時代の胡服1着、古墳時代の巫女衣装1着、平安時代の狩衣1着、平安時代の女房装束1着だが、弥生時代の貫頭衣の数はキッズミュージアムなどの親子イベント時に使用するため多く制作した。



古代衣装変身ミラー

◎その他関連機関・団体との共催事業

○全国歴史民俗系博物館協議会

全国歴史民俗系博物館協議会（歴民協）は、平成23年3月11日の東日本大震災をきっかけに設立され、全国を9つのブロックに分け、館長が設立の呼びかけ人となった12館が、各ブロックの幹事館となった。九州ブロックは、九州国立博物館と九州歴史資料館が幹事館を務めている。

歴民協の第9回年次集会は、6月11日（木）・12日（金）に、宮城県多賀城市の東北歴史博物館にて開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、年次集会を3年度に延期し、総会は書面開催となった。

なお、令和3年6月17日（木）・18日（金）に延期された第9回年次集会も、緊急事態宣言の発出により、再度の延期となり、令和4年2月開催に向けて準備を進めている。

○第10回九州山岳霊場遺跡研究会「求菩提山と豊前の山岳霊場遺跡」

期日：令和2年8月29日（土）・30日（日）

主催：九州山岳霊場遺跡研究会

共催：豊前市教育委員会・九州歴史資料館

後援：国玉神社・築上町教育委員会・日本山岳修験学会

内容：8月29日（土）

現地研修会（求菩提資料館・求菩提山）

8月30日（日）

研究集会（豊前市市民会館大ホール）

基調講演「求菩提山の山岳信仰」（恒遠俊輔氏）

研究報告1「求菩提山の薬」（相良悦子氏）

研究報告2「求菩提山とその周辺の古尊像—平安時代後期の作例を中心に—」

（井形 進）

研究報告3「求菩提山山岳霊場遺跡の平面構造—坊集落を中心として—」（岡寺 良）

研究報告4「求菩提の農村景観～修験と共に生きた人々～」（栗焼憲児氏）

シンポジウム「求菩提山の山岳信仰を考える」（司会：國生知子）

参加人数：1日目46名・2日目138名

（７）重点施策

〔福岡国際交流史発信事業〕

◎沖ノ島の玉に関する調査

○関連事業「ムナカター祈り・暮らし・交わり」

会期：令和２年９月１日（火）～１２月２３日（水）

会場：九州歴史資料館、宗像大社神宝館、九州国立博物館、海の道むなかた館、福津市歴史資料館

主催：九州歴史資料館、宗像大社神宝館、九州国立博物館、海の道むなかた館、福津市複合文化センター歴史資料館、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会

内容：本事業は、遺産群に関わりが深く、平素より連携して調査研究や保存活用事業を行っている５館と、「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会が合同で企画・実施した５館連携事業である。

事業実施に際しては、展覧会開催日程を揃え、共通の図録（Ａ４版カラー印刷 ３２頁）やポスター・チラシを作成し、展示内容の紹介映像を共同でネット配信するなど事業の統一化を図り、複数の関連事業を開催するなどして効果の相乗を図った。



５館連携展覧会ポスター

○開催記念式典

（新型コロナウイルス感染症対策により報道関係者向け内覧会に内容変更）

日時：令和２年９月１８日（金）１３：００～

場所：宗像大社勅使館

内容：主催者挨拶、各展覧会概要説明、プレス内覧会開催

○調査研究成果報告会「謎とき！ムナカタ」

日時：令和２年１０月１１日（日）１３：３０～１７：００

場所：福津市カメラアホール

内容：各館の展示担当者による成果報告、報告映像のネット配信を行った。

参加者：８４名

○５館周遊クイズラリー「ムナカタの謎にせまる！」

期間中、各館を周遊してクイズに回答することで景品を受け取ることができる事業を開催した。

◎大宰府史跡１００年記念映像資料の作成・シンポジウムの開催

２年度は大宰府史跡が指定されてちょうど１００年にあたる。その節目を記念して、大宰府史跡に関する映像を元年度・２年度で製作した。

記念映像は大宰府史跡の紹介を意図したもので、３０分版と１０分版の２種類を作成。また観光振興策として日中韓英の４ヶ国版を作成した。

また、１００年の節目を記念して記念シンポジウムを開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染症対策のため中止となった。

○シンポジウム「律令国家と大宰府史跡～平城京・大宰府・多賀城～」

日程：令和3年3月6日（土）13:30～16:30

会場：太宰府市中央公民館「プラム・カルコア」大ホール

内容：記念講演「令制大宰府成立前史—総領と大宰」

坂上康俊氏（九州大学大学院教授）

シンポジウム

「律令国家と大宰府史跡～平城京・大宰府・多賀城～」

コーディネーター 林部 均氏

（国立歴史民俗博物館副館長・教授）

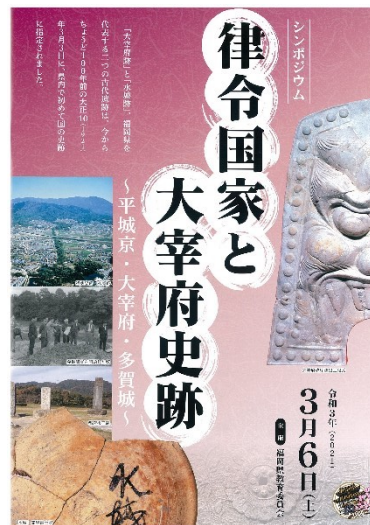
登壇者 箱崎和久氏

（奈良文化財研究所都城発掘調査部長）

吉村靖徳（当館文化財調査室長）

白崎恵介氏

（宮城県多賀城跡調査研究所上席主任研究員）



シンポジウムポスター

◎朝鮮通信使総合調査・報告書作成

ユネスコ「世界の記憶」に「朝鮮通信使に関する記録：17世紀～19世紀の日韓間の平和構築と文化交流の歴史」が登録されたことを契機に、福岡県は国の助成（地方創生推進交付金）を受け、福岡県の重点施策の一環として、30年度から2年度にかけて、福岡国際交流史発信事業（江戸時代の福岡の国際交流）を実施し、この事業において、福岡県朝鮮通信使総合調査を実施した。

30年度には、当該年度まで黒田家文書（総数597件、1,016点）を所蔵していた県立図書館が、このうち世界の記憶登録資料の福岡藩朝鮮通信使記録15冊（『朝鮮人来聘記』11冊、『朝鮮人帰国記』4冊）の文化財修理を実施した。黒田家文書は元年度より当館に移管され、福岡藩朝鮮通信使記録の調査を行った。調査は、宝暦13～14年（1763～64）『朝鮮人来聘記』11冊、『朝鮮人帰国記』4冊の既存の翻刻文を、修理後の全帖写真と照合し、本文を校正した。本文の検証成果については、これを紹介するホームページのデータを制作した。また『朝鮮人来聘記』と『朝鮮人帰国記』の実物について、書誌情報を調査した。

このホームページは、ユネスコ世界の記憶や黒田家文書、黒田家文書の中の朝鮮通信使記録について解説し、あわせて、世界の記憶登録資料全帖の写真と積文をウェブ上で閲覧・検索を可能とするデータベースも備えた。完成したホームページは、令和3年2月19日より当館ホームページにて公開した（<https://kyurekifukuoka.jp/>）。

併行して、30年度から元年度には、相島の波止場や遠見番所、朝鮮通信使応接に際し、遭難した福岡藩の民衆の墓地など、朝鮮通信使関連遺跡の測量調査を行った。

この他、2年度には、県内で同じく世界の記憶に登録された小笠原文庫の文化8年（1811）の小倉藩朝鮮通信使記録6冊についても調査を行い、書誌情報と内容の調査を実施した。関連する資料として、対馬藩旧蔵の正徳元年（1711）朝鮮通信使行列絵巻（福岡市博物館所蔵）や、延享5年（1748）の藍嶋絵図（岩国徴古館所蔵）などの調査も行った。

これらの調査成果をまとめて、令和3年3月に『福岡県朝鮮通信使関連総合調査報告書』を刊行した。報告書には、黒田家文書の『朝鮮人来聘記』と『朝鮮人帰国記』、小笠原文庫の小倉藩朝鮮通信使記録の書誌情報と内容の要約、関連する資料の調査成果、相島に残る朝鮮通信使関連遺跡の測量調査等の成果を掲載し、また相島沖の海底遺跡から引き揚げられた古代の瓦や陶磁器等の調査成果も掲載し、古代以来、海上交通の要衝であった相島の歴史的環境も概観できるように構成した。

〔福岡歴史文化発信・体感事業〕

◎キッズミュージアム

○キッズミュージアム2020 ～第1・3日曜日は古代体験の日～

本事業は、当初田植えや稲刈りなどの季節に応じて一連の体験をする長期プログラムと、長期プログラムに参加できない子どもを対象にした単発イベントに分けて実施する体験イベントである。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため計画通りには実施できず、また、土日祝日に行う古代体験を休止していることから、本事業を密にならない内容で定員を8名として回数を増やして実施することで、土日祝日の古代体験の代替りとした。

内容は以下のとおりである。

日程	内容	参加者数
9月6日(日)・9月20日(日)	拓本うちわづくり	4名
10月4日(日)・10月18日(日)	親子で竪穴住居組み立て体験&弓矢体験	6名
11月1日(日)・11月28日(日)	My石庖丁づくりと古代米収穫体験	5名
12月6日(日)・12月20日(日)	紙漉きで年賀はがきづくり	7名
1月17日(日)・1月31日(日)	弓矢で狩り体験	中止
2月7日(日)・2月21日(日)	粘土で土器づくり	中止
3月14日(日)・3月21日(日)	バックヤードツアー&クイズラリー	9名



拓本うちわづくり



親子で竪穴住居組み立て体験



紙漉きで年賀はがきづくり

○古代衣装の制作

土日祝日の古代体験で提供している古代衣装試着では奈良時代の貴族と女官の衣装を各4種運用している。2年度は衣服の歴史を体感してもらうため、ほかの時代の古代衣装を制作した。既存の奈良時代の衣装は袖や裾をたくし上げることで子どもも着用できるが、他の時代の衣装は兼用することが難しいことから、利用頻度の高い子ども用の衣装を制作した。縄文時代の貫頭衣男女各1着・弥生時代の貫頭衣12着、古墳時代の胡服1着、古墳時代の巫女衣装1着、平安時代の女房装束1着、平安時代の狩衣1着を制作した。弥生時代の貫頭衣の数が多いのはキッズミュージアムなどのイベント時に使用するためである。



平安時代の女房装束

◎歴史文化の森

○県指定史跡三沢遺跡の調査

三沢遺跡は、脊振山系から東にのびる通称「三国丘陵」の東端部付近に位置する。標高30～40mの低丘陵が続き、ヤスデの葉状に細い尾根と深い谷が入り組んだ地形が特徴的である。昭和46年（1971）、九州縦貫自動車道の建設のための土取場の候補地となったことを受け、当時の福岡県文化課による試掘調査が行われ、弥生時代の集落跡が良好な状態で確認されたことから、昭和53年、約11haが福岡県指定史跡に指定され、保存されることになった。

当館が小郡に移転・開館し、三沢遺跡と一体となった整備・活用を図るための基礎資料を得るため、元年度より遺跡の確認調査を実施しており、2年度は元年度に引き続き、集落の中心部と想定される指定地内の西端の最も高い部分である標高約60mの丘陵で調査を行った。試掘調査時のI・J地区に該当する。丘陵頂部付近の平坦な部分約1,000㎡について重機で表土の掘削を行い、遺構検出を行った。

調査の結果、新たに竪穴住居跡2棟、土坑3基以上を確認した。また、元年度検出した丘陵縁辺部の大溝については、丘陵周囲を巡らず、集落の環濠ではない事を確認したが、機能の特定には至っていない。

確認調査に関しては2年度で終了し、3年度に報告書を作成する予定である。

また、三沢遺跡整備の一環として、遺跡解説板の新設や既存看板の内容更新、遺跡や当館を訪問する来訪者の便益を図るための案内標識を設置した。



三沢遺跡調査地全景



新設の三沢遺跡解説板

◎文化財データバンク

○報告書・写真のデジタル化

元年度から3年度までの3カ年をかけ、過去に福岡県が発掘調査を実施し、調査報告書として刊行した約600冊についてデジタル化を行い、HP等を活用して順次公開することとした。あわせて、発掘調査の成果（現場・出土遺物）を撮影した銀映フィルムの写真資料をデジタル化し、記録の保存、および活用に資するための事業を開始した。2年度は、九州縦貫自動車道関係をはじめ、国道バイパス等の発掘調査報告書及び写真資料を中心に整理を行い、デジタル化の作業を行った。電子化を行った報告書については順次九州歴史資料館HP等を利用して公開し、写真資料については整理が整い次第、借用や公開など広く活用できるように整備を図る。

◎九州歴史資料館移転開館10周年記念イベント

期日：令和2年11月8日（日）

主催：九州歴史資料館

内容：当館は、平成22年に移転開館して令和2年で10周年を迎えた。当館の活動を温かく見守り、支援して下さった地元住民の方々への感謝と、近接するあすみ団地の新しい住民の方々へのアプローチも兼ねて、幅広い年齢層の方が楽しめるイベントを実施した。なお、ステージは客席を50席に制限し、体験ブースは主に屋外で行うメニューにするなど感染防止対策に努めた。

内容は以下のとおりである。

日程	プログラム
10：00～10：15	開会式
10：15～10：30	福岡県指定無形文化財 筑前博多独楽のステージ1回目
10：30～13：30	体験ブース午前の部 ①鬼瓦マグネット作り体験②竪穴住居組み立て体験③スポーツ土器パズル ④ぎっちゃんゴフル⑤弓矢射的⑥ぬりえコーナー「きゅうおに大集合」
13：30～13：45	筑前博多独楽のステージ2回目
13：45～16：00	体験ブース 午後の部

なお、体験ブースの「スポーツ土器パズル」は国立青少年教育振興機構「体験の風をおこそう推進月間」事業に登録して実施した。また、ぬりえコーナー「きゅうおに大集合」では、古代体験の「きゅうおにぬりえ」の作品を募集してエントランスに掲示した。



筑前博多独楽



弓矢射的体験

（８）広報活動

◎一般向け広報

当館では、25 年度から学芸調査室に広報普及班を設置し、幅広い手段や媒体を活用して広報活動を行っている。予算の関係から有料広告や大々的な広報は難しいものの、ホームページやポスター・チラシはもとより、公共の広報誌や民間のフリーペーパー、インターネット情報サイトなど様々な無料広報媒体を活用し、近隣施設には直接訪れて広報資料の掲示協力を依頼するなどして展示やイベントの周知を行っており、特に30 年度からは近隣の3つの公民館で回覧板に添付してもらうことにした。こうした周知方法では、展示やイベントの内容や対象とする世代に合わせて、企画ごとに配布先、周知方法を考慮するなどの工夫もしている。さらに、マスコミ関係には展示等の情報を提供するとともに、取材と情報紹介について依頼を行っている。

また、来館者の利便性を考慮した広報を心がけ、文化情報広場に講座関係のチラシや資料を集めて、当館が展示と講座の情報の発信源となるよう工夫を行っている。

○有料広報

- ・特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」西鉄駅ポスター掲示 8クール（約8週間）
- ・企画展「朝鮮通信使と福岡」西鉄駅ポスター掲示 感染拡大防止のため中止
- ・企画展「三池港と洞海湾」朝日新聞ふるさとNEWS枠 令和3年3月10日（水）

◎他施設等との相互広報

他施設や団体との連携については、県内各市町村の博物館・資料館を紹介することを目的として、各館にご協力いただき統一的な各館の紹介チラシを掲示している。また、当館開催の講座で配布し、県内施設での相互広報などのネットワークの構築を進めている。今後は相互リンクや広報資料の共有などを進めていく予定である。

○県政PR展示

会期：令和2年7月10日（金）～7月28日（火）、10月1日（木）～10月18日（日）
12月15日（火）～12月27日（日）、令和3年2月9日（火）～21日（日）

会場：福岡県立図書館 1階第1閲覧室

主催：福岡県立図書館

内容：県立図書館では、本館1階第1閲覧室で県政に関わるPR活動とともに関係する書籍を展示する事業を行っている。今年度は、7月に企画展「出土品から見た福岡の戦争遺跡」、10月に特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」、12月には企画展「朝鮮通信使と福岡」・特集展示「北部九州の経塚遺宝」、2月に企画展「三池港と洞海湾」・「古代・中世の人々の暮らし」を中心としたポスターを掲示した。



福岡県立図書館 県政PR展示

○よかもんひろば利用広報

会期：令和2年8月17日（月）～9月30日（水）

会場：福岡県庁11階物産観光展示室「福岡よかもんひろば」回廊

主催：物産観光展示室「福岡よかもんひろば」

内容：福岡県観光政策課では、県庁11階物産観光展示室「福岡よかもんひろば」で県内市町村、庁内各課及び各種団体が主催する観光・物産PRイベント等を行っている。2年度は、8月に企画展

「出土品から見た福岡の戦争遺跡」、9月に特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」を中心としたポスター等を掲示した。

○アクロス福岡コミュニケーションエリア利用広報

会期：令和2年10月26日（月）～11月1日（日）

主催：公益財団法人 アクロス福岡

内容：アクロス福岡では、コミュニケーションエリアで自治体や文化施設の企画展示やイベントを実施している。2年度は10月の特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」と関連イベントのポスター展示と大型スクリーンでの展示画像の上映を実施した。



よかもんひろば利用広報



アクロス福岡コミュニケーションエリア利用広報

◎博学連携、学習支援に向けた広報

教室では味わうことのできない感動ある学習が、博物館を活用することによって可能となる。実際にむかしの人がつくり、使っていた出土品などの展示資料にふれる学習を1校でも多く、1人でも多く体験してもらえよう、当館の活用を呼びかける広報を行っている。

年度初めの小郡市校長会をはじめ学校訪問など学校支援に向けた広報や、研修会は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止になったが、棚入れや郵送による広報は行い、館の活用促進を図った。

元年度の活用実績が来館学習10校、スクールミュージアム事業6校、職場体験12校、出前授業7校に対し、2年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため校外学習を控える学校が多く、かつ密集防止のため大規模校を受け入れることができなかったことから、来館学習5校にとどまった。新型コロナウイルス感染症の感染収束後は、多くの学校による活用をめざしていきたい。

このほか下記の広報を行った。

- ・ホームページ・ツイッターの情報更新・管理
- ・ポスター・チラシの配布：歴史関係施設・団体、企画内容に則した団体、主催・共催や講師派遣先の講演会・講座参加者、他機関の講演会・イベント等、書店等の店舗
- ・県・小郡市の広報媒体への情報掲載：教育福岡・福岡県だより・グラフ福岡・広報おごおりほか
- ・雑誌への情報掲載：「博物館研究」「古代文化」ほか
- ・情報サイトへの情報提供：イベントバンク・いこーよ ほか
- ・県庁1階デジタルサイネージ利用広報
- ・特別展・企画展開催直前のマスコミ向け内覧会の開催など情報提供

なお、館のアピールを行うため、29年度から継続して「福岡県観光パスポート（ふくおかよかとこパスポート）」と「ミュージアム周遊パス」に参加した。

福岡県観光パスポート（ふくおかよかところパスポート）」は福岡県が、株式会社日本旅行へ委託し、観光客の動向調査及び県内周遊を目的として実施する事業である。「ミュージアム周遊パス」は大規模スポーツ国際大会の開催を契機として、九州各県の美術館・博物館等文化施設への周遊を促進する取り組みであり、これに参加して施設情報を掲載した。

2年度からは企画展の紹介動画をYouTubeで公開する広報をはじめた。外出を自粛している方に自宅で展示を楽しんでいただくとともに、当館や文化財への関心を高めるために制作したもので、出演・撮影・編集をすべて職員で行った。

また、新型コロナウイルスの影響により、全国の小中学校・高校の多くが校外学習を控える中、北海道博物館が発起人となり、「おうちミュージアム」の取り組みがスタートした。この取り組みは、全国の博物館・資料館に広がり、大人も一緒に楽しめるユニークな学習コンテンツがインターネット上に数多く公開されている。当館もこれに参加し、休止した古代体験に替わって、古代体験で使用している塗り絵をホームページでダウンロードできるようにしたり、Webパネル展や収蔵品紹介などを行った。



YouTube「きゅうれきチャンネル」

（９）実習・研修

◎博物館実習

２年度は５大学から８名の大学生を受け入れ、８月１８日（火）～２８日（金）の１０日間、下記の内容で実施した。（８月２３日（日）は休み）なお、密になる内容の講座を変更するなどして、新型コロナウイルス感染防止に努めた。

参加した実習生の在籍校および人数は以下のとおりである。



博物館実習の様子

大学名	学部名	学科名	実習生数
久留米大学	文学部	情報社会学科	１名
		国際文化学科	１名
筑紫女学園大学	文学部	日本語・日本文学科	２名
		アジア文学科	１名
福岡大学	人文学部	文化学科	１名
佐賀大学	芸術地域デザイン学部	地域デザインコース	１名
九州産業大学	芸術学部	ビジュアルデザイン学科	１名

博物館実習カリキュラム

日程	午前	午後	担当
第１日	開講式・オリエンテーション 西谷正名誉館長講話	講話「学芸員の実務」 施設見学	広報普及班 学芸研究班
第２日	考古資料の取り扱い		学芸研究班
第３日	大宰府史跡の見学		調査研究班
第４日	遺跡の調査と測量		調査研究班
第５日	教育普及（講座準備等）	名誉館長講座受講	広報普及班
第６日	美術工芸資料の取り扱い		学芸研究班
第７日	資料の保存修復と保管		保存管理班
第８日	歴史資料の取り扱い		学芸研究班
第９日	広報普及（古代体験）	図書資料整理	広報普及班 学芸研究班
第１０日	博物館の保存環境	実習のまとめ 閉講式	保存管理班 広報普及班

◎埋蔵文化財発掘調査基礎研修

29年度より、県内市町村文化財担当職員の埋蔵文化財の調査・事務処理の知識および技術の向上を目的として、発掘調査等の実務経験が少ない新採職員等を対象とした基礎研修を実施している。

2年度は従来の講座内容を見直し、全6回の講座として開催した。

「埋蔵文化財発掘調査基礎研修」研修内容

回	開催日		テーマ	内 容	
1	8月7日	埋 文 事 務 手 続 き	埋蔵文化財に関する法律	講義	文化財保護法・関連法令
			埋蔵文化財事務手続き		事務手続きの流れ、九州地区基準・県取扱要綱
					事前審査
					試掘確認調査
					埋蔵文化財関連国庫補助事業
2	9月25日	発 掘 調 査	事前準備	講義	発掘調査着手にかかる諸手続き
					着手前の現地確認
					調査計画の策定
					作業員の募集と雇用
					安全衛生管理
			本調査		機材の搬入
					表土剥ぎ
					遺構検出
					遺構掘り下げ
					図化
					写真撮影
					現地調査後の対応
			図化実習	実習	測量機器の取り扱い
3	10月16日		実技	実習	遺構の検出・掘削の基礎
			図化実習		平板測量・コンター図作成・1/20図化
4	11月13日	整 理 ・ 報 告 書 作 成	整理・報告書作成	講 義 実 習	整理作業の流れ
					文章の作成、編集、入稿、校正
					遺構割付、遺物割付
5	12月18日	報 告 書 作 成	遺物実測（1）	実習	土器実測
			写真	講義	写真撮影の方法
			拓本	実習	拓本
6	3月23日	整 理 ・ 報 告 書 作 成	遺物実測（2）	実習	石器、金属器等実測
			トレース	講義	トレースの方法
		保 存 管 理	特殊遺物の対応	講義	特殊遺物の対応
			遺物の保存管理		遺物の保存処理・科学分析の方法と外注の実際
					整理後の遺物と記録類の保存管理と活用

(10) 刊行物一覧

No.	書名	刊行月
1	『九州歴史資料館研究論集46』	3月
2	『九歴だよりNO. 51』	4月
3	『九歴だよりNo. 52』	10月
4	『福岡の至宝に見る信仰と美』	10月
5	『朝鮮通信使と福岡』	12月
6	『九州歴史資料館解説シート77 即位の大礼と福岡県』	5月
7	『九州歴史資料館解説シート78 邪馬台国への道（前編）』	6月
8	『九州歴史資料館解説シート79 船原古墳遺物埋納坑調査の最前線 2020-2021』	3月
9	『大宰府政庁周辺官衙跡ⅩⅢ 一蔵司地区 平地部編 2一』	10月
10	『大宰府史跡発掘調査報告書 XI 平成30・令和元年度』	3月
11	『福岡県文化財調査報告書第275集 竹林庵跡 黒川院跡 南淋寺』	3月
12	『福岡県文化財調査報告書第276集 荷原地神塔』	3月
13	『福岡県文化財調査報告書第277集 荷原岩切堀川』	3月
14	『福岡県文化財調査報告書第278集 福岡県朝鮮通信使関連総合調査報告書』	3月
15	『上須川古墳群 一福岡県朝倉市須川所在遺跡の調査一』	3月
16	『大宰府史跡100年記念シンポジウム「律令国家と大宰府史跡」～平城京・大宰府・多賀城～』	3月
17	『九州に偏在する大陸渡来彫刻の研究―薩摩塔を中心とする石造物を主として―』	3月
18	『古代大宰府の部内諸司に関する基礎的研究』	3月
19	『高精細三次元データを用いた考古遺物の新たな資料化に係る研究』	3月

(11) 交流事業

◎日韓学術文化交流事業

福岡県教育委員会では、アジア文化交流センターからの執行委任事業として、百済・新羅の調査研究を行っている韓国国立文化財研究所との間で職員の相互派遣による学術交流事業を行っている。

2年度は新型コロナウイルス感染予防のため本事業を中止した。

(12) 協議会等

◎九州歴史資料館協議会

令和2年10月30日（金）に木川会長ほか10名の委員が出席して協議会を開催した。

○協議・報告事項

- 1 報告事項 元年度事業報告
元年度九州歴史資料館自己評価表（実施段階）
- 2 協議事項 2年度事業計画
2年度九州歴史資料館自己評価表（計画段階）

九州歴史資料館協議会委員名簿

令和2年6月1日現在

	氏 名	所 属
(会 長)	木川 りか	九州国立博物館博物館科学課長
(副会長)	黒田 修三	前宇美町立図書館長
委 員	佐古 和枝	関西外国語大学教授
	柴田 博子	宮崎産業経営大学教授
	小林 知美	筑紫女学園大学准教授
	中野 等	九州大学院比較社会文化研究院教授
	樋田 京子	太宰府市教育委員会教育長
	工藤 正則	小郡市立三国中学校長
	秋永 晃生	小郡市教育委員会教育長
	植野 かおり	公益財団法人立花財団 立花家史料館長
	花田 睦子	那珂川市立安徳小学校長
	河上 信行	株式会社河上建築事務所長
	高妻 洋成	奈良文化財研究所副長兼埋蔵文化財センター長
	川述 昭人	八女市岩戸山歴史文化交流館長

2 九州歴史資料館概要

(1) 沿革

昭和43年 7月 1日	大宰府史跡発掘調査指導委員会が発足し、第1回委員会が開催される。
昭和44年 9月 5日	福岡県が、九州歴史資料館設置計画の基本構想を発表
昭和46年 3月 8日	太宰府天満宮が九州歴史資料館・国立博物館用地として社有地約14 万㎡を寄贈 福岡県は九州歴史資料館を建設することとし、建設工事に着手
昭和47年 3月	建設工事竣工（落成式）
昭和47年 4月	「福岡県公の施設及び管理に関する条例」に基づき九州歴史資料館設置 「九州歴史資料館組織規則」制定 副館長以下19 名発令
昭和47年 5月	鏡山猛、初代館長に就任
昭和47年11月	「九州歴史資料館協議会規則」制定（委員15 名を委嘱）
昭和48年 2月	「九州歴史資料館の利用に関する規則」制定
2月24日	九州歴史資料館開館（展示室一般公開開始まる）
昭和49年 8月	求菩提資料館開館
昭和50年 9月 4日	博物館相当施設（相当施設第9号）
昭和53年10月	大宰府史跡発掘調査10 周年記念特別展「一甕る遠の朝廷—大宰府」開催
昭和56年 4月	田村圓澄、第二代館長に就任
昭和59年 2月	開館10 周年記念特別展「国宝観世音寺鐘・妙心寺鐘とその時代」開催 開館10 周年記念シンポジウム「古代の西海道と大宰府」開催
昭和60年 4月 1日	「九州歴史資料館条例」施行 求菩提資料館・甘木歴史資料館・柳川古文書館を分館とする
昭和60年 5月25日	甘木歴史資料館開館
昭和60年10月 1日	柳川古文書館開館
昭和63年 9月	大宰府史跡発掘調査20 周年記念特別展「発掘が語る遠の朝廷—大宰府」開催
平成 2年 9月	「とびうめ国体」の本県開催に並行し、特別展「古代の福岡」開催（～11月）
平成 5年 4月	吉久勝美、第三代館長に就任
平成 5年10月	開館20 周年記念特別展「日本の鬼瓦」開催
平成 8年 4月	高橋良平、第四代館長に就任
平成 8年12月26日	公開承認施設（第51号）
平成 9年 6月	福岡県教育委員会教育長 光安常喜、九州歴史資料館長に兼務発令
平成10年10月	大宰府史跡発掘調査30 周年記念特別展「大宰府復元」開催
平成14年 4月	福岡県教育委員会教育長 森山良一、九州歴史資料館長に兼務発令
平成15年 1月	開館30 周年企画展示「大宰府へ、こころが動き、ものが動く」開催
平成15年 8月	特別展「大宰府へ、ひとが動き、ものが動く」開催
平成16年 4月	特別展「大宰府へ、くになが動き、ものが動く」開催
平成18年11月	特別展「観世音寺」開催
平成20年 4月	西谷 正、第七代館長に就任 組織規則の一部改正；課制を廃止し、室・班制とする 小郡市三沢に新九州歴史資料館建設工事着手
平成20年10月	大宰府史跡発掘調査40 周年記念事業開催（～12月） 『都府楼』刊行記念講演会、シンポジウム、企画展示など
平成21年 6月	新九州歴史資料館建設工事竣工
平成22年 3月	特集展示「九歴の歩み」開催

平成22年 7 月	組織移転（太宰府市→小郡市）
平成22年11月20日	開館記念式典・一般公開開始（21日～） 開館記念特別展「大宰府ーその栄華と軌跡ー」開催（～1月）
平成22年12月	開館記念シンポジウム「大宰府と西海道ー古代の役所と人々のくらしー」開催
平成23年 2 月	常設展公開開始
平成23年 4 月	文化財調査室（文化財調査班、保存管理班）設置
平成23年 7 月25日	登録博物館（第22号）
平成23年11月	特別展「発掘された日本列島2011」開催（～12月）
平成24年 1 月	移転開館1周年記念企画展「北部九州の霊山と経塚」開催（～2月）
平成24年10月	特別展「長崎街道ー世界とつながった道ー」開催（～12月）
平成25年 1 月	企画展「聖地四王寺山」開催（～3月）
平成25年 4 月	荒巻俊彦、第八代館長に就任 学芸調査室に広報普及班設置、学芸普及班は学芸研究班に名称変更、総務室に総務班設置
平成25年 9 月	開館40周年・移転開館3周年記念特別展 「戦国武将の誇りと祈りー九州の覇権のゆくえー」開催（～11月）
平成25年10月	開館40周年・移転開館3周年記念イベント開催
平成26年 1 月	企画展「五卿と志士ー維新前夜の太宰府ー」開催（～2月）
平成26年 4 月	杉光 誠、第九代館長に就任
平成26年 8 月	企画展「黒田官兵衛と城」開催（～9月） 企画展「水城築堤1350年記念企画展「徹底解説!! 水城のすべて」開催（～9月）
平成26年10月	特別展「福岡の神仏の世界ー北部九州に華ひらいた信仰と造形ー」開催（～11月）
平成26年11月	入館者10万人達成記念式典
平成27年 9 月	企画展「貝原益軒ー大宰府研究の先賢たちー」開催（～10月）
平成27年10月	大野城築城1350年記念・移転開館5周年記念特別展 「四王寺山の1350年ー大野城から祈りの山へー」開催（～12月）
平成27年10月	移転開館5周年記念イベント開催
平成28年 9 月	特別展「八女の名宝」開催（～11月）
平成28年11月	企画展「大宰府の役人と文房具」開催（～1月）
平成29年 8 月	特別展「霊峰英彦山」開催（～9月）
平成29年10月	企画展「福岡県の城」開催（～12月）
平成30年 2 月	企画展「堅粕薬師と東光院の古仏たち」開催（～4月）
平成30年 4 月	特別展「大宰府への道」開催（～6月）
平成30年 9 月	企画展「発掘速報展2018」開催（～12月）
平成30年12月	企画展「歴史の宝石箱ダイジェスト展」開催（～3月）
令和元年10月	特別展「久留米ーその歴史と文化ー」（～12月）
令和2年 1 月	企画展「太宰府天満宮の境内絵図ーさいふまいの江戸・明治ー」（～2月）
令和2年 2 月	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館（～5月）
令和2年 4 月	吉田法稔、第十代館長に就任
令和2年10月	移転開館10周年記念特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」開催（～11月）
令和2年11月	移転開館10周年記念イベント開催
令和2年12月	企画展「朝鮮通信使と福岡」開催（～2月）

(2) 施設概要

- 1) 本館棟 鉄筋コンクリート造・一部鉄骨造、地上2階
展示室、図書閲覧室、研修室、会議室、保存科学諸室、文化財整理諸室、
特別収蔵庫、図書収蔵庫、調査研究室、写真室、文化情報広場
- 2) 敷地面積 43,438.62㎡
- 3) 延床面積 9,475.92㎡
- 4) 一般収蔵庫棟 鉄骨造
木器保存処理室・一般収蔵庫
- 5) 建設費 約36億円(本館・一般収蔵庫)

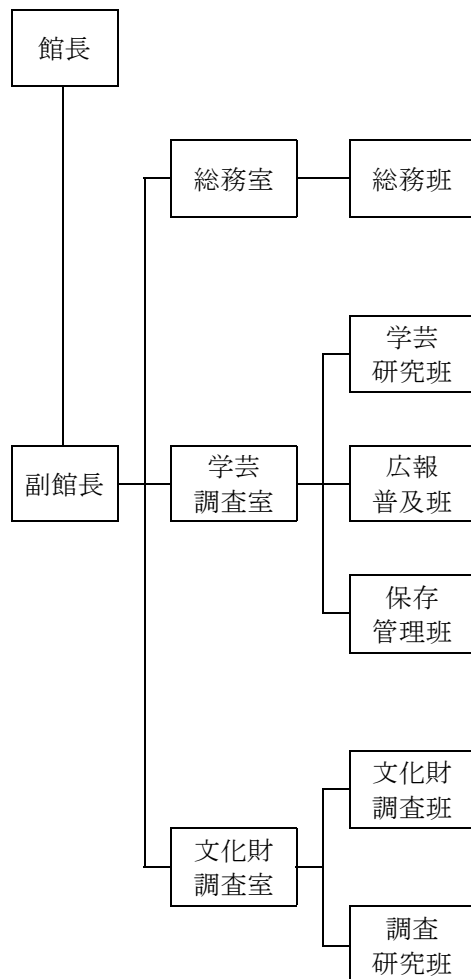
(3) 予算(2年度)

当館の事業費総額は335,944千円で、内訳別にみると次のとおりである。

1	九州歴史資料館費	308,424千円
	資料館運営費	129,637千円
	歴史資料調査研究費	1,578千円
	歴史資料等収集整備費	740千円
	資料館展示費	1,639千円
	特別展示事業費	6,509千円
	県史史料管理公開事業費	9,182千円
	九州歴史資料館整備費	68,132千円
	福岡国際交流史発信事業	10,550千円
	福岡歴史文化発信・体感事業	23,673千円
	文化財デジタル体験コンテン ツ導入事業費	56,784千円
2	文化財保護費	27,520千円
	大宰府史跡発掘調査費	27,520千円
	※受託・執行委任事業は除く	

(4) 組織・職員

①九州歴史資料館



所 属		職 名	氏 名	摘 要
館 長			吉 田 法 稔	
副館長			安 永 千 里	
総務室	企画主幹		伊 藤 幸 子	総務室長
	総務班	企画主査	畑 山 智	総務班長
		主任主事	古 賀 知 香	
		主事	具志堅 靖知	
		主事	田 中 佑 弥	
		主事補	堀 口 佳 代	
		主事補	櫻井 夕起子	
	運転手	金 田 司		
学芸調査室	参事		小 田 和 利	学芸調査室長
	学芸研究班	参事補佐	松 川 博 一	学芸研究班長
		企画主査	井 形 進	
		企画主査	酒 井 芳 司	
		技術主査	遠 藤 啓 介	
		主任技師	日 野 綾 子	
	広報普及班	参事補佐	秦 憲 二	広報普及班長
		指導主事	今 村 洋 次	
		指導主事	手 島 綾	
		主任技師	渡 部 邦 昭	
	保存管理班	企画主査	加 藤 和 歳	保存管理班長
		技術主査	小 林 啓	
文化財調査室	企画主幹		吉 村 靖 徳	文化財調査室長
	企画主幹		伊 崎 俊 秋	同室長補佐
	文化財調査班	参事補佐	森 井 啓 次	文化財調査班長
		参事補佐	小 川 泰 樹	
		技術主査	飛 野 博 文	
		技術主査	坂 本 真 一	
		技術主査	岡 田 諭	
		主任技師	梶佐古 幸謙	
	調査研究班	参事補佐	吉 田 東 明	調査研究班長
		企画主査	進 村 真 之	
		技術主査	岡 寺 良	

②九州歴史資料館研究論集編集委員会

委員長	副館長	安 永 千 里
委 員	学芸調査室長	小 田 和 利
委 員	文化財調査室長	吉 村 靖 徳

(5) 関係法規

○九州歴史資料館条例

昭和60年1月21日福岡県条例第4号)

最終改正 令和元年7月 福岡県条例第5号

(設置)

第1条 地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条の規定に基づき、歴史資料の収集、保管、調査及び研究を行うとともに、併せてこれを展示し、もって文化財の保護と文化財愛護思想の普及に資するため、歴史資料館を設置する。

(名称及び位置並びに分館の設置)

第2条 歴史資料館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
九州歴史資料館	小郡市

2 九州歴史資料館に分館を置き、その名称及び位置は、次のとおりとする。

名 称	位 置
求菩提資料館	豊前市
甘木歴史資料館	朝倉市
柳川古文書館	柳川市

(利用の承認等)

第3条 福岡県公の施設の設置及び管理に関する条例(昭和39年福岡県条例第5号)第3条から第6条まで及び第9条の規定は、九州歴史資料館の利用の承認等について適用する。この場合において、第4条第1項中「知事若しくは委員会から公の施設の管理に関し委任を受けた者」とあるのは、「指定管理者」と読み替えるものとする。

(九州歴史資料館協議会)

第4条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、九州歴史資料館協議会(次項及び第六項において「協議会」という。)を置く。

2 協議会の委員(以下この条において単に「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命する。

3 委員の定数は、15人以内とする。

4 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、再任されることができる。

6 前各項に定めるもののほか、協議会に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(使用料)

第5条 九州歴史資料館を利用する者は、別表第1各表の区分に応じ、当該各表に掲げる金額の使用料を納めなければならない。

2 前項の規定により納付した使用料は、還付しない。ただし、規則で定める場合に該当するときは、その全部又は一部を還付することができる。

(手数料)

第6条 資料の複写を依頼しようとする者は、別表第2の区分に応じ、同表に掲げる金額の手数料を納めなければならない。

(使用料又は手数料の減免)

第7条 知事は、規則で定める場合に該当するときは、使用料又は手数料を減額し、又は免除することができる。

(適用除外)

第8条 前3条の規定は、第2条第2項に規定する分館(以下単に「分館」という。)については、適用しない。

(指定管理者による管理)

第9条 分館の管理に関する業務のうち次に掲げるものは、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であって教育委員会が指定する者(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

一 分館の利用の許可に関する業務

二 分館の諸施設の維持及び保守に関する業務

三 前2号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務

(指定管理者の指定の手続)

第10条 指定管理者の指定を受けようとする者は、教育委員会規則で定める申請書に、次に掲げる書類を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

一 事業計画書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会規則で定める書類

2 教育委員会は、前項の規定による申請があったときは、次の各号のいずれにも該当する者の中から最も適切に分館の管理を行うことができると認めた者を指定管理者として指定するものとする。

一 事業計画の内容が、住民の平等な利用を確保することができるものであること。

二 事業計画の内容が、分館の効用を最大限に発揮させるとともに、効率的な管理ができるものであること。

- ること。
- 三 分館の管理を安定して行うために必要な人員及び財政的基盤を有しているものであること。
- 四 法令並びに関係条例及び規則の規定を遵守し、適正な管理ができるものであること。
- 五 その他教育委員会が分館の設置の目的を達成するために必要と認めるものとして別に定める事項
- 3 教育委員会は、指定管理者の指定をしたとき、及び指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公示するものとする。

(秘密保持義務)

第11条 指定管理者及び分館の管理に関する業務に従事する者(以下「従事者」という。)は、個人情報が適切に保護されるよう配慮するとともに、分館の管理に関し知り得た秘密を他に漏らし、又は自己の利益のために利用してはならない。指定管理者の指定の期間が満了し、又は指定を取り消され、及び従事者の職務を退いた後においても、同様とする。

(協議)

第12条 この条例に定めるもののほか、管理に要する経費その他必要な事項は、教育委員会と指定管理者が協議して定める。

(規則への委任)

第13条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則(抄)

(施行期日)

この条例は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則 (令和元・7・16福岡県条例第5号)

(施行期日)

この条例は、令和元年10月1日から施行する。

(九州歴史資料館条例の一部改正に伴う経過措置)

第二十九条の規定による改正後の九州歴史資料館条例の規定は、施行日以後にされる利用の承認に係る使用料について適用し、施行日前にされた利用の承認に係る使用料については、なお従前の例による。

別表第1 (第5条関係)

1 九州歴史資料館が主催して展示する歴史資料館の観覧料

区 分		金額 (1回につき)
個人で観覧する場合	一般	210円
	大学生・高校生	150円
20人以上の団体で観覧する場合	一般	150円
	大学生・高校生	100円

備考

1 この表において「大学生・高校生」とは、大学、高等専門学校、高等学校、中等教育学校の後期

課程、特別支援学校の高等部、専修学校又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。

2 この表において「一般」とは、大学生・高校生及び中学生(中学校、義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程、特別支援学校の中学部又はこれらに準ずるものに在学する者をいう。)以外の者であつて、15歳以上の者をいう。

2 展示室の使用料

区 分		金額 (1日につき)
入場料を徴収しない場合	第2展示室	3,510円
	第4展示室	8,500円
入場料を徴収する場合	第2展示室	5,260円
	第4展示室	12,750円

3 会議室及び研修室の使用料

区 分	金額 (1時間につき)
会議室	390円
研修室1	390円
研修室2	390円
研修室3	390円

備考 使用時間に1時間に満たない端数があるときは、当該端数を1時間として計算する。

別表第2 (第6条関係)

区 分	金額 (1枚につき)
電子式複写(白黒)	10円
マイクロフィルムから	10円

○九州歴史資料館の利用、指定管理者の指定等に関する規則

(昭和48年2月20日教育委員会規則第4号)

最終改正 平成22年6月 教育委員会規則第10号

(目的)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。)第13条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の利用、指定管理者の指定等について定めることを目的とする。

(休館日)

第2条 資料館の休館日は、次のとおりとする。

- 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日にあたるときは、その日後においてその日に最も近い休日でない日
- 12月28日から翌年1月4日まで

- 2 前項の規定にかかわらず、九州歴史資料館長等(分館にあっては指定管理者。以下「館長等」という。)が必要と認めた場合は、臨時に休館又は開館することができる。ただし、この場合は、館長等がその都度あらかじめ日時を公示しなければならない。
- 3 前項の規定により、指定管理者が分館を臨時に休館又は開館しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。
(開館時間)
- 第3条 資料館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、入館は、午後4時までとする。
- 2 館長等は、特別の事情があるときは、前項に規定する開館時間を変更することができる。
- 3 前項の規定により、指定管理者が分館の開館時間を変更しようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けるものとする。
(利用の申込)
- 第4条 資料館(分館を除く。)の展示室、会議室及び研修室を利用しようとする者は、別に定める利用申込書を、事前に九州歴史資料館長に提出しなければならない。
(利用申込の取消又は変更)
- 第5条 前条の申込みをした者が、利用を中止し、又は利用内容を変更しようとするときは、直ちに九州歴史資料館長にその旨を通知しなければならない。
(利用の承認)
- 第6条 九州歴史資料館長は、第4条の使用申込が提出されたときは、速やかにこれを審査して使用の承認又は不承認を決定し、申込者に通知しなければならない。
(資料の複写)
- 第7条 資料の複写を必要とする場合は、九州歴史資料館長が別に定めるところにより、これを依頼することができる。ただし、次の各号の一に該当する場合は、九州歴史資料館長は、複写を認めないことがある。
 - 一 著作権法(昭和45年法律第48号)に違反するおそれがあると認められるとき。
 - 二 資料館の管理上支障があると認められるとき。
 - 三 その他九州歴史資料館長が複写を不相当と認めたとき。
- 2 前項の複写は、九州歴史資料館に設置された複写機器により行うものとする。
(利用制限)
- 第8条 館長等は、次の各号の一に該当すると認められる者については、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。
 - 一 他人に迷惑をかけ、展示品又は施設設備を損傷するおそれがあると認められる者
 - 二 その他係員の指示に従わない者
(資料の館外貸出し)
- 第9条 資料の館外貸出しは、原則として行なわないものとする。ただし、博物館、図書館、学校、官公署、その他館長等が適当と認めたものに対しては、この限りでない。
- 2 前項ただし書に掲げるものが資料の館外貸出を受けようとする場合は、別に定めるところにより、館長等の許可を受けなければならない。
- 3 資料の館外貸出しを受けたものは、館長等の指示するところにより、管理に当らなければならない。
- 4 館外貸出しを受けた資料は、これを他に転貸してはならない。
- 5 資料の貸出期間は、品目によって館長等がその都度定めるものとする。
(損害の賠償)
- 第10条 観覧者、利用者又は資料の館外貸出しを受けたものが、自己の責に帰すべき理由により、施設設備、展示品又は資料を損傷し、又は滅失したときは、館長等の指示を受けてこれを原形に復し、又は館長等が定める相当の代価をもって損害を賠償しなければならない。
(寄贈又は寄託)
- 第11条 資料館は、資料の寄贈又は寄託をうけることができる。
- 2 資料館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、別に定めるところにより、館長等にその旨申出るものとする。
- 3 館長等が寄贈又は寄託を受けることを決定した場合は、本人にこの旨を通知するものとする。
(寄贈資料の取扱い)
- 第12条 寄贈を受けた資料には、寄贈者の氏名及び寄贈年月日を標記し、永くその篤志を伝えるものとする。
(寄託資料の取扱い)
- 第13条 寄託を受けた資料(以下「寄託資料」という。)の寄託期間は、その都度館長等が寄託者と協議して定めるものとする。
- 2 寄託資料は、資料館所蔵の資料と同一の取扱いとする。
- 3 寄託資料は、寄託者の請求又は資料館の都合によりこれを返還することがある。
- 4 寄託資料が天災その他不可抗力によって滅失又は損傷したときは、資料館は損害賠償の責を負わない。
(申請書及び添付書類)
- 第14条 条例第10条第1項の教育委員会規則で定める申請書は、別記様式によるものとする。
- 2 条例第10条第1項第2号の教育委員会規則で定める書類は、次に掲げる書類とする。
 - 一 同種の施設の管理及び運営に係る活動実績報告

書

二 前号に掲げるもののほか、教育委員会が特に必要なものとして別に定める書類
(その他)

第15条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、館長等が別に定める。

附 則

この規則は、昭和48年2月24日から施行する。

附 則 (平成22・6・30教育委員会規則第10号)

この規則は、平成22年7月1日から施行する。

○九州歴史資料館組織規則

(昭和47年4月1日教育委員会規則第2号)

最終改正 平成23年3月 教育委員会規則第2号
(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第3条の規定に基づき、九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の組織その他必要な事項を定めるものとする。

(職員の職)

第2条 資料館職員の職として、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職務は、それぞれ同表下欄に掲げるとおりとする。

館 長	教育長の命を受け、資料館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
副 理 事	上司の特命に係る事務を処理する。
副 館 長	館長を補佐し、館長が不在のとき又は館長が欠けたときは、その職務を代理する。
参 事	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
参事補佐	上司の命を受け、資料館の事務を分担処理する。
企画主幹	上司の命を受け、企画・調整等に関する事務に関し、館長又は副館長を補佐する。
指導主事	上司の命を受け、学校教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
社会教育主事	上司の命を受け、社会教育に関する専門的事項の指導に関する事務に従事する。
企画主査	上司の命を受け、調査、計画立案等の事務を処理する。
事務主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、事務を処理する。
技術主査	上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、技術を処理する。 上司の命を受け、企画主幹等を補佐し、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項を処理する。

主任主事	上司の命を受け、複雑な事務をつかさどる。
主任技師	上司の命を受け、複雑な技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について複雑な専門的事項をつかさどる。
主 事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
技 師	上司の命を受け、技術をつかさどる。
	上司の命を受け、歴史資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業について専門的事項をつかさどる。
主任技能員	上司の命に従い、高度な技能を要する労務に従事する。
技 能 員	上司の命に従い、労務に従事する。

(所掌事務)

第3条 資料館の所掌事務は、次のとおりとする。

- 一 古文書、典籍等の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 二 美術工芸品、民俗資料等の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 三 古文書、典籍、美術工芸品、民俗資料等の展示及び文化財愛護思想の普及に関すること。
- 四 考古資料の収集、保管、調査及び研究に関すること。
- 五 考古資料の展示に関すること。
- 六 歴史資料の科学的保存処理に関すること。
- 七 史跡の発掘調査及び研究に関すること。
- 八 史跡に関する歴史資料の収集、保管、調査、研究、展示及び整備に関すること。
- 九 公印の管守並びに職員の身分及び服務並びに文書の収受、発送、編集及び保存、公文書の開示等に関すること。
- 十 予算並びに税外諸収入の収入並びに経費の支出並びに物品の出納及び保管並びに現金及び有価証券等の保管に関すること。
- 十一 九州歴史資料館協議会に関すること。
- 十二 職員の研修及び福利厚生に関すること。
- 十三 施設設備の管理に関すること。
- 十四 埋蔵文化財の発掘調査受託事業等の事務に関すること。
- 十五 埋蔵文化財の発掘調査に関すること。

(補則)

第4条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。

附 則 (平成23・3・30教育委員会規則第2号)

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

○九州歴史資料館協議会規則

(昭和60年3月30日教育委員会規則第4号)

最終改正 平成24年3月 教育委員会規則第1号
(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例(昭和60年福岡県条例第4号)第4条第1項に規定する九州歴史資料館協議会(以下「協議会」という。)の運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 協議会に、会長及び副会長各1名を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によるものとし、任期は1年とする。ただし、再選することができる。

3 会長は、会務を総理する。

4 副会長は、会長が欠けたとき又は会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議の招集)

第3条 協議会の会議は、必要に応じ、会長が招集する。

2 資料館の館長は、必要と認めるときは、会長に協議会の招集を求めることができる。

(議決)

第4条 協議会の会議は、委員の半数以上が出席しなければ、会議を開き議決することができない。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第5条 協議会の庶務は、九州歴史資料館において処理する。

(補則)

第6条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営及び会議に関し必要な事項は、会長が協議会にはかつて定める。

附 則(抄)

(施行期日等)

1 この規則は、昭和60年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の日の前日において九州歴史資料館協議会委員に任命されている者については、別に辞令が発せられない限り改正後の九州歴史資料館協議会規則(以下「改正後の規則」という。)第四条の規定により任命されたものとみなし、当該委員の期間は改正後の規則第五条の規定による委員の期間に通算する。

附則(平成24年3月28日教育委員会規則第1号抄)

(施行期日)

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

○九州歴史資料館の使用料及び手数料に関する規則

(平成22年6月30日福岡県規則第30号)

最終改正 平成29年9月 教育委員会規則第34号
(趣旨)

第1条 この規則は、九州歴史資料館条例((昭和60年福岡県条例第4号。以下「条例」という。))に規定する九州歴史資料館(以下「資料館」という。)の使用料及び手数料に関し必要な事項を定めるものとする。

(使用料の徴収時期)

第2条 使用料(条例第5条第1項の使用料をいう。以下同じ。)は、資料館の利用の承認の際に徴収する。ただし、国又は地方公共団体が利用する場合にあっては、当該利用の後に徴収することができる。

(使用料の還付)

第3条 条例第5条第2項ただし書の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同項ただし書の規定により還付する使用料の額は当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 天災地変その他資料館の利用の承認を受けた者の責めに帰することができない場合 当該利用に係る使用料の全額

二 前号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合

知事が必要と認める額

(手数料の徴収時期)

第4条 手数料(条例第6条の手数料をいう。以下同じ。)は、資料の複写の依頼を受けるときに徴収する。

(使用料及び手数料の減免)

第5条 条例第7条の規則で定める場合は、次の各号に掲げる場合とし、同条の規定により減額又は免除(「以下「減免」という。)」をする使用料又は手数料の額は、当該各号に掲げる場合の区分に応じ当該各号に定める額(その額に十円未満の端数があるときは、これを切り捨てた額)とする。

一 学校教育法(昭和22年法律第26号)に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の生徒が教育上の目的のために教職員に引率されて観覧(資料館が主催して展示する歴史資料の観覧をいう。以下同じ。)をする場合 当該観覧に係る観覧料(条例別表第一の一の表の観覧料をいう。以下同じ。)の全額

二 学校教育法に規定する幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校又は特別支援学校の幼児、児童又は生徒を教育上の目的のため

- に引率する教職員が観覧をする場合
当該観覧に係る観覧料の全額
- 三 児童福祉施設（児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条第1項に規定するものをいう。以下同じ。）に入所又は通所している少年（同法第4条第3号に規定する少年をいう。
以下同じ。）が教育上の目的のために児童福祉施設の職員に引率されて観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 四 児童福祉施設に入所又は通所している幼児（同法第4条第2号に規定する幼児をいう。）又は少年を教育上の目的のために引率する児童福祉施設の職員が観覧をする場合 当該観覧料に係る観覧料の全額
- 五 学校教育法に規定する高等学校、中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 六 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条に規定する身体障害者手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 七 療育手帳制度要綱（昭和48年9月27日厚生省発児第156号）に規定する療育手帳（以下単に「療育手帳」という。）の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 八 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条に規定する精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 九 福岡県男女共同参画センター、福岡県人権啓発情報センター及び福岡県総合福祉センターの設置及び管理に関する条例施行規則（平成8年福岡県規則第55号）第9条第5号に規定する身体障害者若しくは身体障がいのある人、療育手帳の交付を受けている者又は精神保健及び精神障害者福祉に関する法律施行令（昭和25年政令第155号）第6条第3項に規定する1級若しくは2級の精神障害者（以下「障がいのある人」と総称する。）の介護人が当該障がいのある人とともに観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 十 65歳以上の者が観覧をする場合 当該観覧に係る観覧料の全額
- 十一 県又は県教育委員会の主催する行事の用に供するため、入場料を徴収して展示室、会議室又は研修室（以下「展示室等」という。）の使用をする場合 当該使用に係る使用料の50パーセントに相当する額
- 十二 前号の用に供するため、入場料を徴収しないで展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十三 学校教育法第1条に規定する学校が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十四 地方公共団体が資料館の設置の目的に適合する展示室等の使用をする場合 当該使用に係る使用料の全額
- 十五 県の機関が資料の複写を依頼する場合 当該複写に係る手数料の全額
- 十六 前各号に掲げる場合のほか、知事が特に必要と認める場合 知事が必要と認める額
- 十七 中等教育学校の後期課程若しくは特別支援学校の高等部の生徒又はこれに準ずる者が土曜日に観覧する場合 当該（減免の申請）
- 第6条 前条第一号から第四号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する引率をする者は、九州歴史資料館観覧料免除申請書（様式第1号）を知事に提出しなければならない。
- 2 前条各五号から第十号までのいずれかに該当する場合の観覧料の免除を受けようとする場合は、これらの号に規定する者（前条第九号に該当する場合にあつては、障がいのある人）は、これらの号に該当することを証明することができる書類を資料館の職員に提示しなければならない。
- 3 前条第十一号から第十四号までのいずれかに該当する場合の使用料の減免を受けようとする者は、九州歴史資料館使用料減免申請書（様式第2号）を知事に提出しなければならない。
- 4 前条第十五号に該当する場合の手数料の免除を受けようとする者は、九州歴史資料館複写手数料免除申請書（様式第3号）を知事に提出しなければならない。
- 5 前条第十六号に該当する場合の使用料又は手数料の減免を受けようとする者は、別に指示する方法により申請しなければならない。
- 附 則
この規則は、平成22年7月1日から施行する。
附 則（平成29・9・29教育委員会規則第34号）
この規則は、平成29年10月1日から施行する。

3 諸 統 計

(1) 入館者状況

ア 令和2年度入館者状況

期 間	開館日数	入館者数	1日平均入館者数
令和2年5月19日から 令和3年3月31日まで	266日	16,939人	64人

イ 過去5年間の入館者推移

単位・人

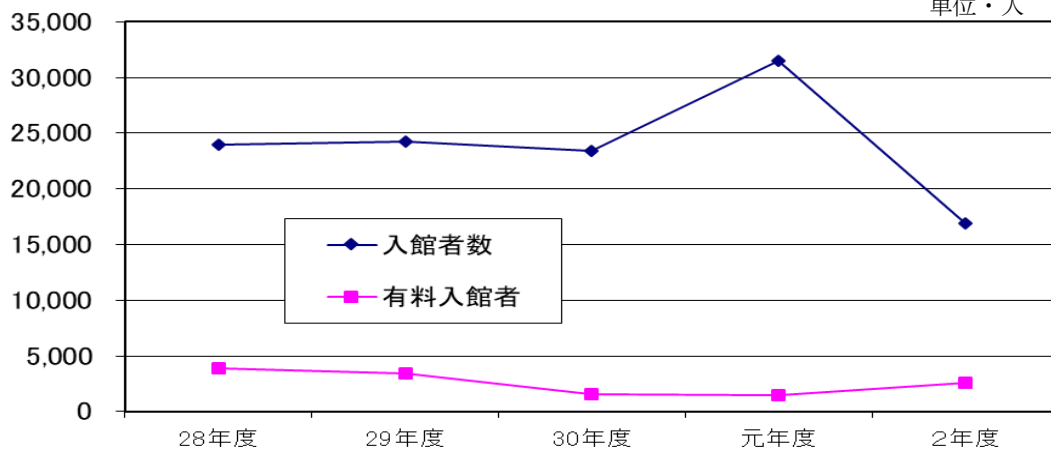
年 度 区 分	開 館 日 数	合 計 入館者数	合 計 有料入館者数	合 計 入 館 者 内 訳			1日平均 入館者数
				大 人	高大生	中学生以下	
28年度	307日	23,962	3,869	19,764	551	3,647	78
29年度	306日	24,254	3,390	19,871	761	3,622	79
30年度	302日	23,367	1,585	19,504	731	3,132	77
元年度	278日	31,500	1,489	28,313	588	2,599	113
2年度	266日	16,939	2,622	15,595	314	1,030	64

※つり天井工事実施のため、平成30年8月13日から令和元年10月11日まで、第1・3展示室（有料展示室）を閉室。

※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年2月28日から5月18日まで臨時閉館。

ウ 過去5年間の入館者推移

単位・人



(2) 収蔵資料・図書

< 寄贈等資料 >

考古資料 287,372 点 歴史資料 127,306 点

< 図 書 >

購 入 4,951 冊 寄 贈 174,260 冊

4 日誌抄

年 月 日	内 容
令和2年 2月28日（金）	新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時閉館（～5月18日（月））
5月19日（火）	パネル展「新九州歴史資料館10年のあゆみ」（～6月14日（日））
5月19日（火）	特集展示「即位の大礼と福岡県」（～7月12日（日））
5月19日（火）	企画展「きゅうおにとタイムトラベラー大昔のくらしと国づくりー」（～7月12日（日））
6月16日（火）	パネル展「邪馬台国への道 前編」（～9月13日（日））
7月14日（火）	企画展「調査成果展「出土品から見た『福岡県の戦争遺跡』」（～9月13日（日））
9月6日（日） 9月20日（日）	キッズミュージアム2020 拓本うちわづくり
9月15日（火）	企画展「福岡の古代豪族ー世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島関連遺跡群研究成果展ー」（～11月29日（日））
9月15日（火）	パネル展「世界遺産『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」（～11月29日（日））
10月4日（日） 10月18日（日）	キッズミュージアム2020 親子で竪穴住居組み立て体験&弓矢体験
10月6日（火）	九州歴史資料館移転開館10周年記念特別展「福岡の至宝に見る信仰と美」（～11月29日（日））
10月6日（火）	パネル展「新九州歴史資料館10年のあゆみー展覧会ポスター展ー」（～11月29日（日））
10月14日（水）	大宰府史跡調査研究指導委員会（～10月15日（木））
10月30日（金）	九州歴史資料館協議会
10月31日（土）	特別展記念講演会1「茶陶から見た高取・上野焼」
11月1日（日） 11月28日（日）	キッズミュージアム2020 My 石庖丁づくりと古代米収穫体験
11月8日（月）	移転開館10周年記念イベント 筑前博多独楽
11月19日（木）	埋蔵文化財安全衛生講習会
11月21日（土）	アクロスミュージアムコンサート in 九州歴史資料館
11月22日（日）	特別展記念講演会2「新出・藤原定家本源氏物語『若紫』について」
12月1日（火）	企画展「古代・中世の人々のくらし」（～4月18日（日））
12月1日（火）	パネル展「邪馬台国への道 前編（再）」（～3月28日（日））
12月6日（日） 12月20日（日）	キッズミュージアム2020 紙漉きで年賀はがきづくり
12月12日（土）	企画展「朝鮮通信使と福岡ー福岡県朝鮮通信使総合調査成果展ー」（～2月14日（日））

年 月 日	内 容
令和2年 12月12日（土）	特集展示「北部九州の経塚遺宝―京都国立博物館考古資料相互貸借展―」 （～2月28日（日））
令和3年 2月17日（水）	企画展「三池港と洞海湾～『明治日本の産業革命遺産』企画展3～」 （～3月14日（日））
3月14日（日） 3月21日（日）	キッズミュージアム2020 バックヤードツアー&クイズラリー
3月30日（火）	パネル展「古賀市船原古墳遺物埋納坑調査の最前線2020～2021」 （～7月11日（日））

福岡県行政資料	
分類番号 J H	所属コード 2120261
登録年度 3	登録番号 000●

九州歴史資料館年報（令和 2 年度）

発 行 日 令和 3 年 8 月 31 日
編集・発行 九州歴史資料館
〒818-0068
福岡県小郡市三沢5208-3
T E L 0942-75-9575
F A X 0942-75-7834

ANNUAL BULLETIN

OF

KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

2020

CONTENTS

Preface

1	2020 Report of Kyushu Historical Museum	4
(1)	Survey and Research	4
(2)	Exhibition	20
(3)	Item Available	31
(4)	Study Support/Museum, school Cooperation	41
(5)	Volunteer	45
(6)	Dissemination/Utilization	46
(7)	Priority Measures	56
(8)	Public Relations Activities	61
(9)	Practice and Training Opportunities	64
(10)	Published matter	66
(11)	Interchange	66
(12)	Conference and Meeting Facilities	67
2	Organization of Kyushu Historical Museum	68
(1)	History	68
(2)	Building and Grounds	70
(3)	Budget	70
(4)	Organization Chart and Staff	71
(5)	Rules and Regulations	72
3	Statistics of Kyushu Historical Museum	78
(1)	Museum Visitors	78
(2)	Total Materials and Books	78
4	Outline of 2020 Activities	79